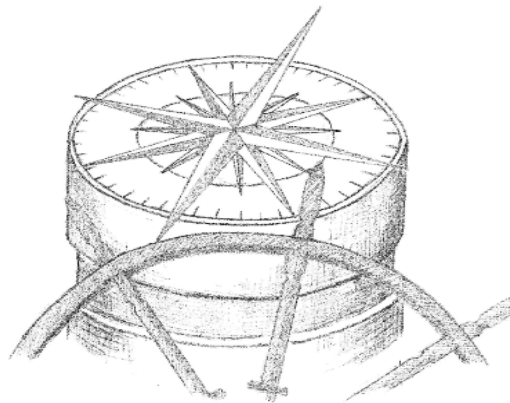


平成 2 6 年度
鹿児島学習定着度調査
(平成 2 7 年 1 月実施)

始良・伊佐地区結果分析



平成 2 7 年 4 月
始良・伊佐教育事務所

目 次

I	各教科の結果概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1	各教科の全体平均通過率・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	各教科の平均通過率と受検者の正答数分布・・・・・・・・	2
(1)	小学校第5学年国語・・・・・・・・・・・・・・・・	2
(2)	中学校第1学年国語・・・・・・・・・・・・・・・・	3
(3)	中学校第2学年国語・・・・・・・・・・・・・・・・	4
(4)	小学校第5学年社会・・・・・・・・・・・・・・・・	5
(5)	中学校第1学年社会・・・・・・・・・・・・・・・・	6
(6)	中学校第2学年社会・・・・・・・・・・・・・・・・	7
(7)	小学校第5学年算数・・・・・・・・・・・・・・・・	8
(8)	中学校第1学年数学・・・・・・・・・・・・・・・・	9
(9)	中学校第2学年数学・・・・・・・・・・・・・・・・	10
(10)	小学校第5学年理科・・・・・・・・・・・・・・・・	11
(11)	中学校第1学年理科・・・・・・・・・・・・・・・・	12
(12)	中学校第2学年理科・・・・・・・・・・・・・・・・	13
(13)	中学校第1学年英語・・・・・・・・・・・・・・・・	14
(14)	中学校第2学年英語・・・・・・・・・・・・・・・・	15
3	受検者の正答数分布からの考察～学力の実態と授業改善の方向性～	16
II	児童生徒質問紙の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	18

I 各教科の結果概要

1 各教科の全体平均通過率

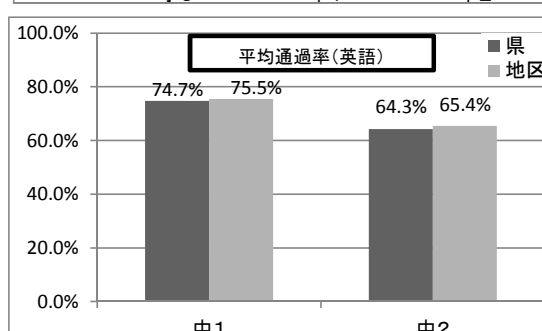
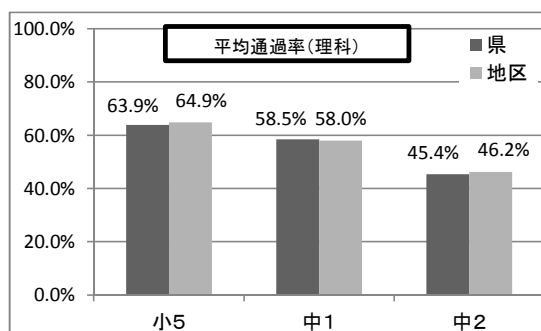
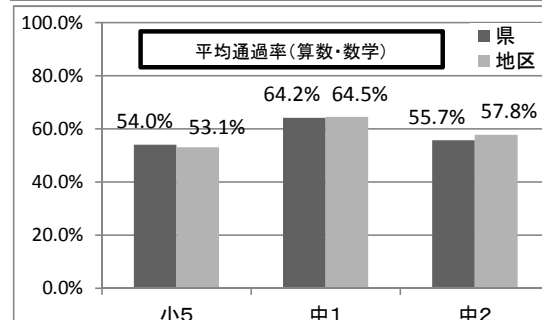
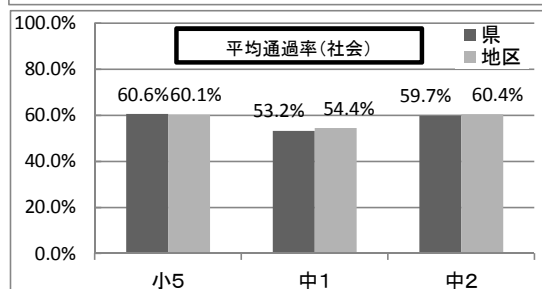
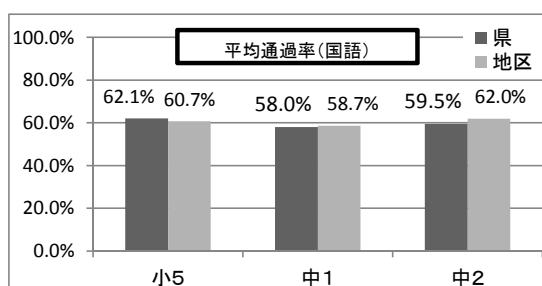
ここでは、本地区における調査実施学年の各教科の全体平均通過率を、県全体の平均通過率との比較で示し、本地区の総合的な学力の定着状況の概要を分析する。

(1) 出題の趣旨及び調査結果の全体的な傾向

- 本調査では、各教科全体の問題数に対して、「基礎・基本」が7割、「思考・表現」が3割程度で出題された。また、県では設定通過率として「基礎・基本」を概ね7割、「思考・表現」を概ね5割としている。各教科や各市町別に見ると差が大きく、「基礎・基本」，「思考・表現」ごとの分析に基づく課題の明確化が必要である。
- 「基礎・基本」の問題に関しては、概ね定着が図られているものの、一部の教科については、基礎的・基本的な内容の定着が不十分なものもある。「思考・表現」の問題に関しては、単元・領域別の一部において改善が見られたものの、課題のある教科・学年もある。

(2) 県平均通過率との比較から

- 全体的な傾向として、小学5年における通過率が理科以外の全教科において県平均を下回っており、課題が大きい。特に国語と算数において、その差が大きくなっている。
- 中学校においては、中1理科で県平均を僅かに下回ったが、それ以外の教科においては全て県平均を上回っている。また、中2における平均通過率は全教科、県平均を上回っており、特に国語、数学においては県平均よりも2ポイント以上、英語においては1ポイント以上高くなっている。本地区の傾向として学年が上がるにつれて、定着度が向上してきていることも明らかになった。
- 県全体の課題となっている「思考・表現」の定着に関しては、本地区では特に小学校において依然として課題が大きい。中学校においては、一定の成果は見られるようになってきたが、今後も小・中ともに思考力・表現力の向上を図るための更なる授業改善が必要である。



※ 各学年、各教科における「基礎・基本」，「思考・表現」ごとの平均通過率及び本地区の学力の定着状況等の詳細については、2「各教科の平均通過率と受検者の正答分布」を参照。

2 各教科の平均通過率と受検者の正答数分布

ここでは、本地区の調査実施学年における各教科の「全体」「基礎・基本」「思考・表現」ごとの平均通過率及び正答数の分布を、県平均との比較で示し、本地区の各教科における学力の定着状況の概要を分析する。

【小5国】

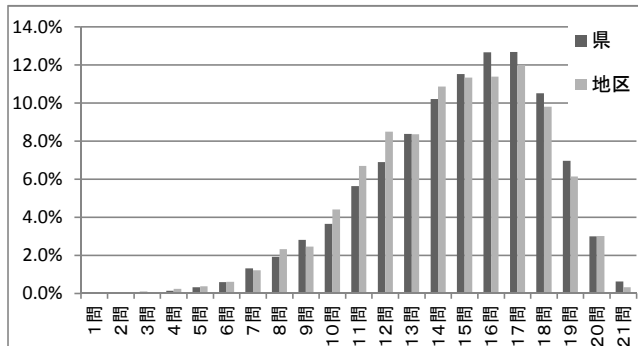
(1) 【国語】

小学校第5学年

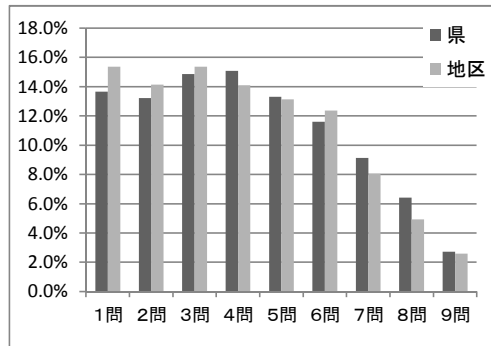
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	70.3	69.1	-1.2
思考・表現	42.9	41.0	-1.9
全体	62.1	60.7	-1.4

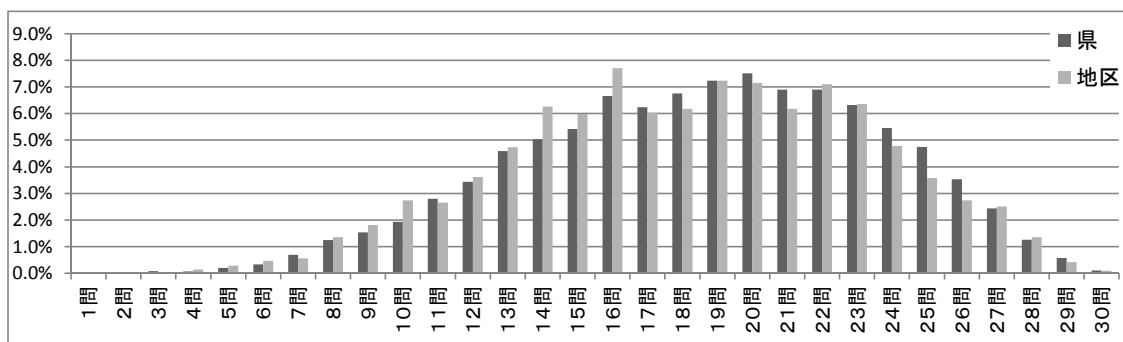
正答数(基礎・基本)の分布



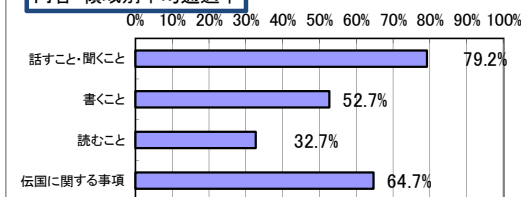
正答数(思考・表現)の分布



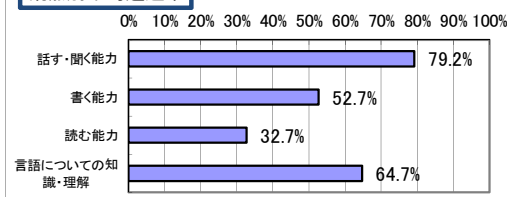
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



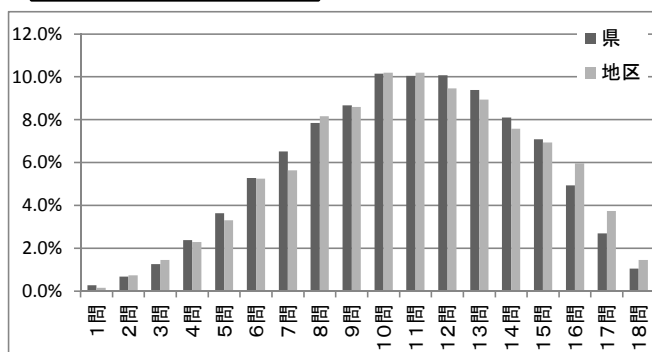
- 「基礎・基本」については、平均通過率 69.1%であり、設定通過率の7割を概ね達成してはいるが、県平均を1.2ポイントと大きく下回っている。特に、「話すこと・聞くこと」の話し手の工夫をとらえることや「読むこと」の優れた叙述について自分の考えをまとめること等に課題がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率 41.0%であり、設定通過率の5割には達していない。県平均との比較からも1.9ポイントと大きく下回り、十分定着が図られているとはいえない。特に、「読むこと」の内容を的確に押さえて要旨をとらえること、効果的な説明の仕方や筆者の意図をとらえること、「書くこと」の目的や意図に応じて正確に引用して、自分の意見を書くこと等に課題がある。
- 正答数の分布については県と概ね同様の傾向はあるが、県よりも若干、中位層の割合が高く、上位層の割合が低い。中位層の児童の学力を引き上げることで、学習集団全体の学力向上を図ることが必要である。
- 今後の取組としては、自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章等を利用して書いたり編集したりする言語活動を充実させ、目的に応じて複数の資料から必要な情報を読み取り、内容や要旨をとらえるとともに、書くことに結び付けていく等の授業改善が必要である。

中学校第1学年

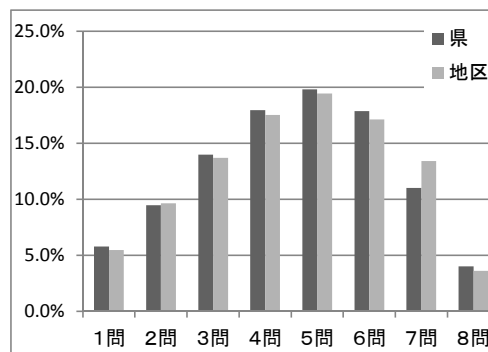
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	59.4	60.2	0.8
思考・表現	54.8	55.3	0.5
全体	58.0	58.7	0.7

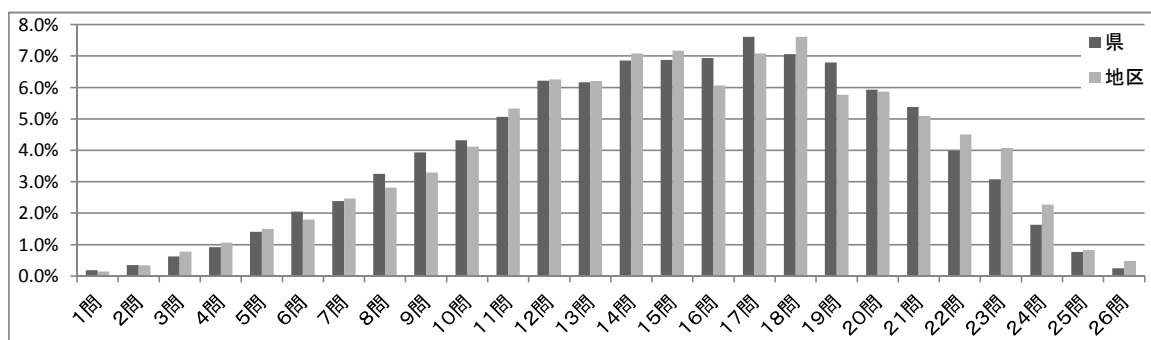
正答数(基礎・基本)の分布



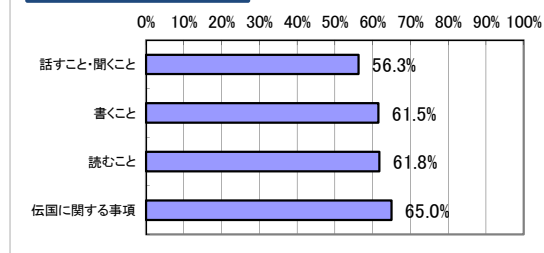
正答数(思考・表現)の分布



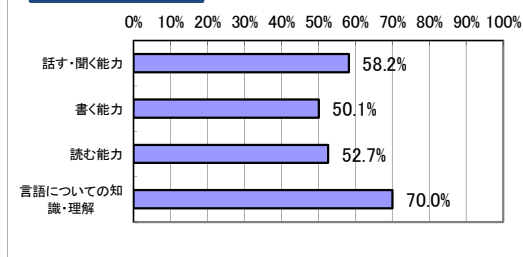
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



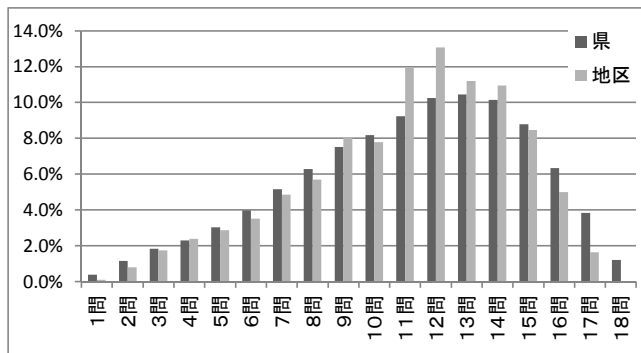
- 「基礎・基本」については、県平均を僅かに上回ったが、平均通過率は 60.2%であり、設定通過率の7割には達していない。特に、「読むこと」の文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分けたり、段落相互の関係を正しく押さえたりして内容をとらえること等に課題がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率が県平均を僅かに上回る 55.3%であり、設定通過率の5割を達成した。しかし、「話すこと・書くこと」の意図をはっきりさせながら方向をとらえて的確に話すことや、「書くこと」の伝えたい事実や事柄について、根拠を明確にして書くこと等に課題が見られた。
- 正答数の分布については県と概ね同様の傾向はあるが、県よりも上位層の割合が高く、下位層の割合が低い。中位層の生徒の学力を引き上げることで、学習集団全体の更なる学力向上が期待できる。
- 今後の取組としては、日常生活の中的话题について対話や討論を行ったり、図表等を用いた説明や記録の文章を書いたりする活動を取り入れる等、言語活動の充実を通じた授業改善が必要である。対話や討論では、話の要点をメモしたり必要に応じて質問したりしながら聞き取り、互いの共通点や相違点を整理することを通して、建設的な話し合いをさせることが大切である。

中学校第2学年

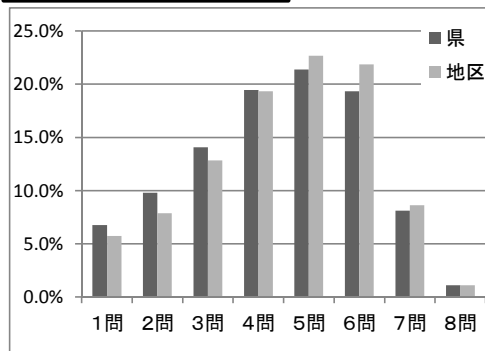
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	62.8	65.5	2.7
思考・表現	52.4	54.9	2.5
全体	59.5	62.0	2.5

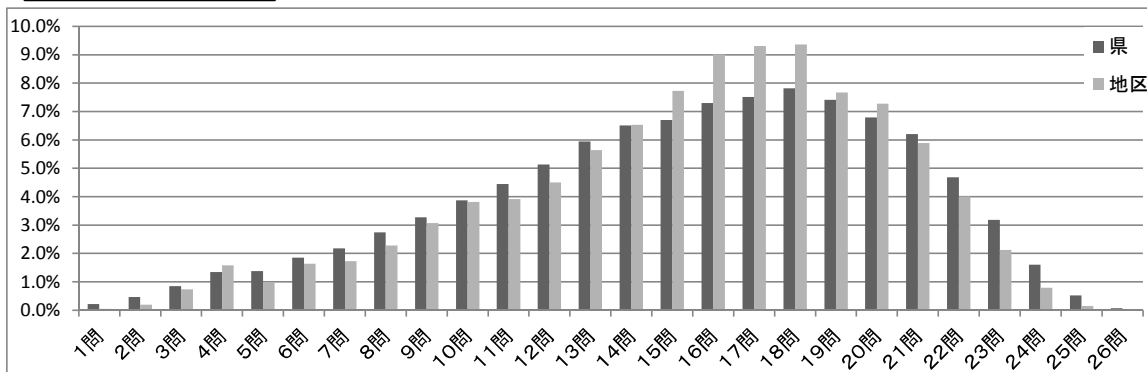
正答数(基礎・基本)の分布



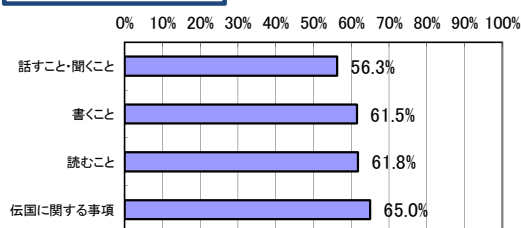
正答数(思考・表現)の分布



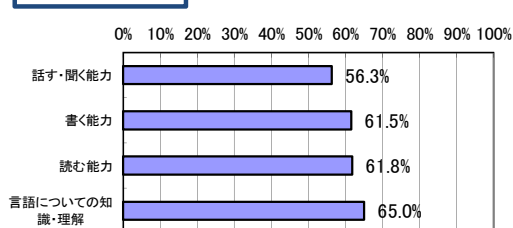
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



- 「基礎・基本」については、平均通過率 65.5%であり、設定通過率の7割には達していないが、県平均を 2.7 ポイントと大きく上回った。しかし、「話すこと・聞くこと」の目的や状況に応じて効果的に話すことや「読むこと」の心情を表す語句等に注意して読むこと等に課題が見られた。
- 「思考・表現」については、平均通過率 54.9%であり、設定通過率の5割を達成し、県平均を 2.5 ポイントと大きく上回った。しかし、「書くこと」の論理の展開を工夫し、資料を適切に引用する等、効果的に活用して、説得力のある文章を書くこと等に課題が見られた。
- 正答数の分布については県と概ね同様の傾向はあるが、県よりも中位層の割合が高く、下位層の割合が低い。中位層の生徒の学力を引き上げることで、学習集団全体の更なる学力向上が期待できる。
- 今後の取組としては、多様な考えが出来る事柄について、意見を述べる文章を書く言語活動等を通して指導の充実を図るとともに、「読むこと」や「話すこと・聞くこと」の領域と関連させた指導の充実を図る等の授業改善が必要である。特に、「読むこと」の指導においては、読書に広がる学習を進めたり、日常的な読書活動と国語の授業を関連付けたりすること等が大切になる。

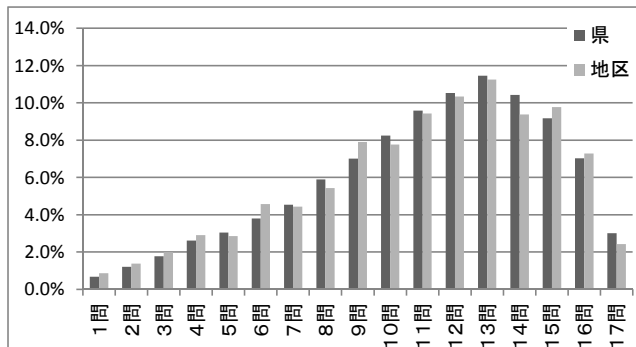
(2) 【社会】

小学校第5学年

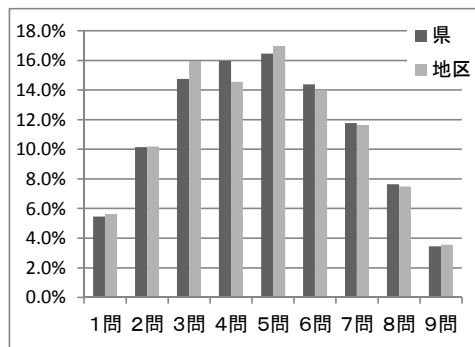
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	65.1	64.3	-0.8
思考・表現	52.2	52.1	-0.1
全体	60.6	60.1	-0.5

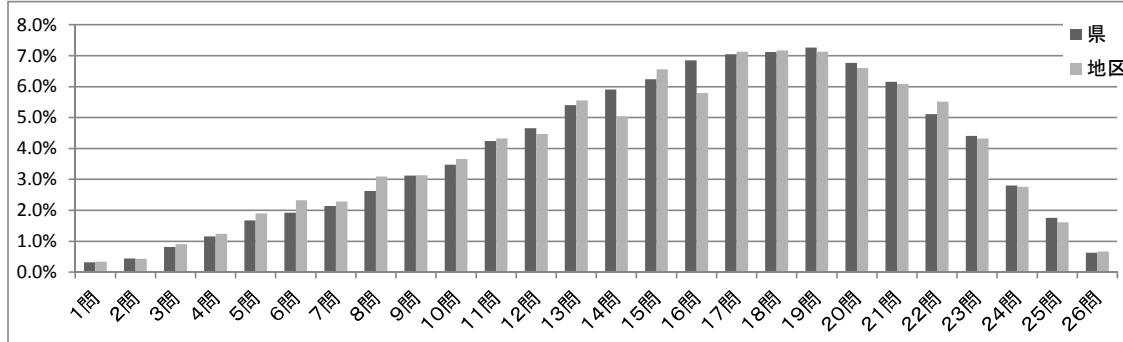
正答数(基礎・基本)の分布



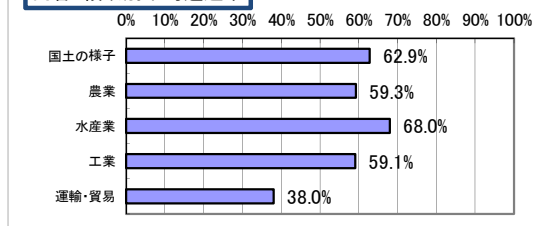
正答数(思考・表現)の分布



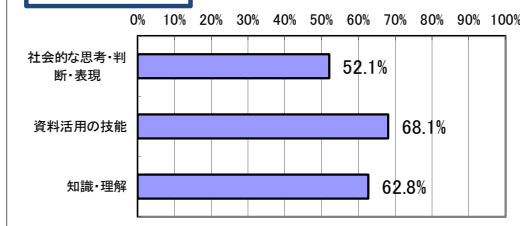
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



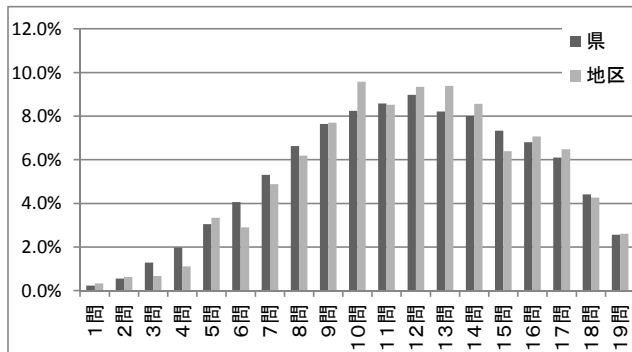
- 「基礎・基本」については、平均通過率 64.3%であり、設定通過率の7割には達していない。県平均からは0.8ポイント低く課題が大きい。特に、生産調整（減反）や道路等、基本的な用語を答える問題においても通過率が低い傾向が見られた。
- 「思考・表現」については、平均通過率 52.1%であり、県平均とほぼ変わらず、設定通過率の5割は達成した。しかし、社会的な見方や考え方に基づいて、自分なりの言葉で表現すること等において課題が大きい。
- 正答数の分布については県と概ね同様の傾向はあるが、県よりも若干、上位層と下位層の割合が高く、中位層の割合が低い。県と比較すると、学力の個人差が大きい傾向がうかがえる。これまで以上に個に応じた指導、個を生かす指導の充実が必要である。
- 今後の取組としては、自分の考えをまとめたり、発表したりさせる際、用語の意味を正しく理解させ、適切に使うことを意識した指導の工夫が必要である。また、地域社会や産業等の社会的事象の特色や相互の関連等について比較、統合、関連付けて考えることの習慣付けや、学習問題に対する自分の考えを相手に的確に伝える表現活動を積極的に取り入れる等の授業改善が必要である。

中学校第1学年

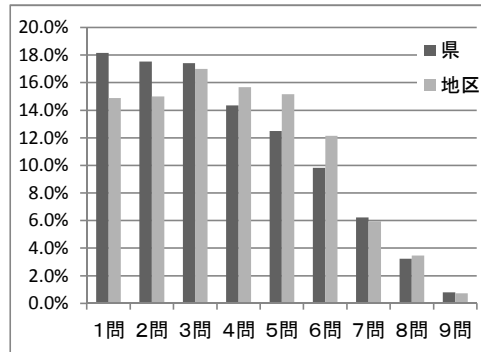
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	61.8	62.4	0.6
思考・表現	35.2	37.3	2.1
全体	53.2	54.4	1.2

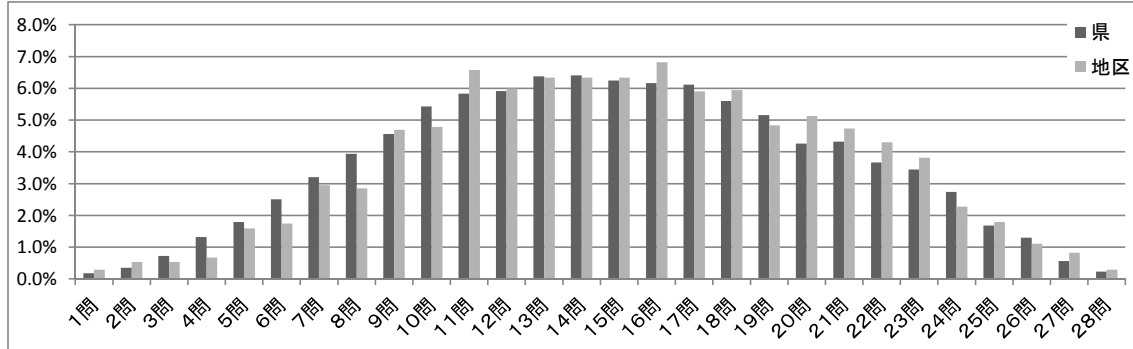
正答数(基礎・基本)の分布



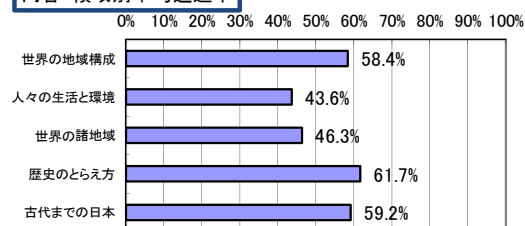
正答数(思考・表現)の分布



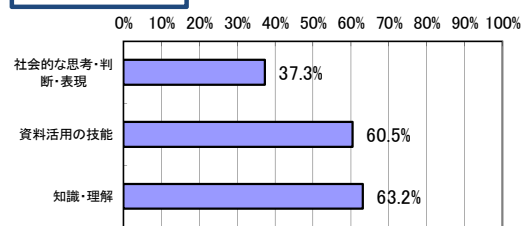
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



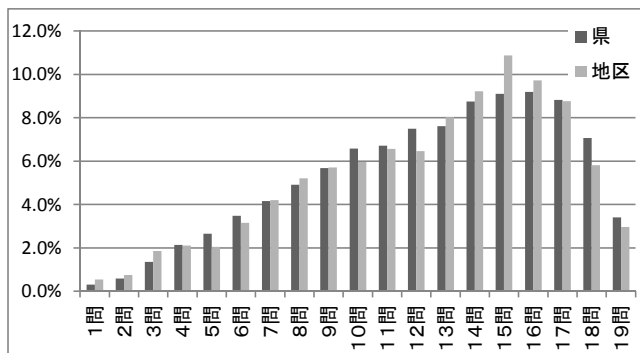
- 「基礎・基本」については、県平均を僅かに上回ったが、平均通過率は 62.4%であり、設定通過率の7割には達していない。特に、気候帯の特色等の問題等に課題がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率 37.3%と設定通過率の5割には達していないが、県平均を 2.1 ポイントと大きく上回った。課題としては、時代順を選択する問題や気候の特色についてグラフを使って説明する問題等の通過率が低く、記述式の問題における課題が大きい。
- 正答数の分布については、県よりも上位層と中位層の割合が高く、下位層の割合が大幅に低い。県と比較すると学力の個人差はさほど大きくないようである。中位層の生徒の学力を更に引き上げることで、学習集団全体の更なる学力向上が期待できる。
- 今後の取組としては、地図や資料等で調べたことを基に、主体的に考えをまとめ、発表し合う活動を通して、多面的、多角的に考察する意識を高め、知識・理解を深める等の授業展開が必要である。また、問題の観点や参考文例を示す等、書くことが苦手な生徒への学習支援策をとり、書く活動を適切に取り入れた授業を実施することで、主体的に学ぶ学習意欲の喚起を図る手立てが必要である。

中学校第2学年

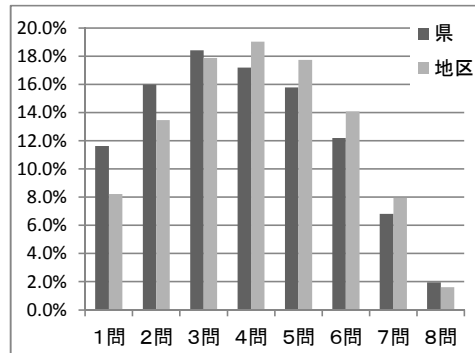
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	65.6	65.1	-0.5
思考・表現	45.6	49.2	3.6
全体	59.7	60.4	0.7

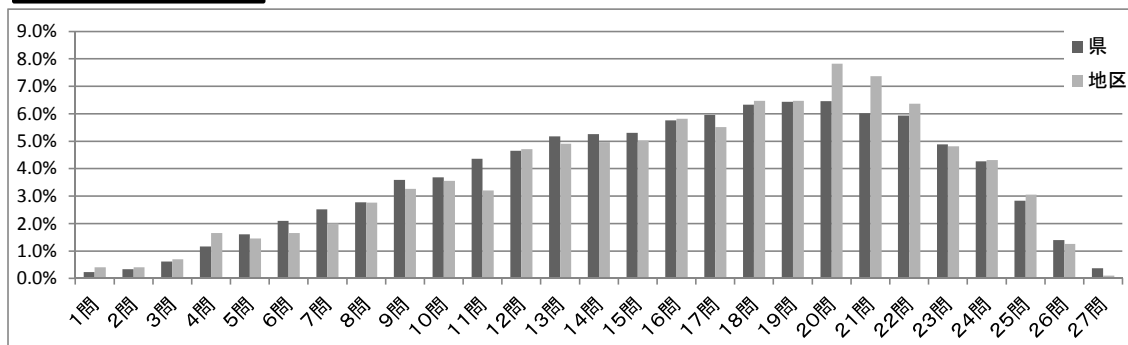
正答数(基礎・基本)の分布



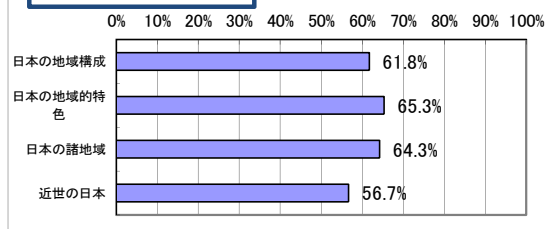
正答数(思考・表現)の分布



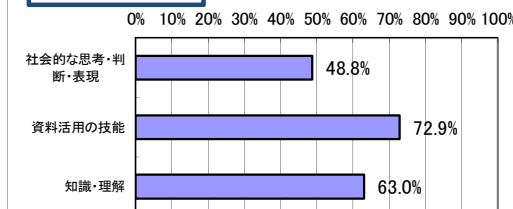
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



- 「基礎・基本」については、平均通過率 65.1%であり、設定通過率の7割には達しておらず、県平均を0.5ポイントと僅かに下回った。課題としては、基本的な用語としての多国籍企業、そして、元禄文化の作品を選択すること等が挙げられる。
- 「思考・表現」については、平均通過率 49.2%であり、設定通過率の5割には満たなかったが、県平均を3.6ポイントと大きく上回った。しかし、扇状地の特徴や歴史で年代順を選択する問題や秀吉の兵農分離について説明する問題等の通過率が低く課題が見られた。
- 正答数の分布については、県よりも上位層と中位層の割合が高く、下位層の割合が大幅に低い。特に「思考・表現」の定着度においては、県よりも上位層の生徒の割合が大幅に高くなっている。中位層の生徒の学力を更に引き上げることで、学習集団全体の更なる学力向上が期待できる。
- 今後の取組としては、地図や資料等を調べて分かったことを基に、主体的に考えをまとめ、発表し合う活動等を通して、多面的、多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養うとともに、知識・理解を深める等の授業展開が必要である。また、生徒一人一人に自分の考えをしっかりとめさせ、書いてまとめさせる活動を適切に取り入れること等、習得した知識・技能を積極的に活用し探究する場の工夫改善が必要である。

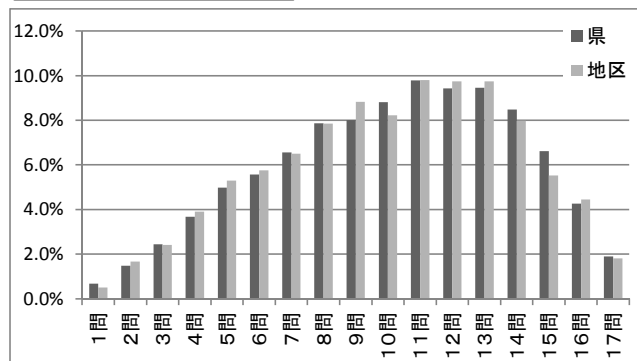
(3) 【算数】

小学校第5学年

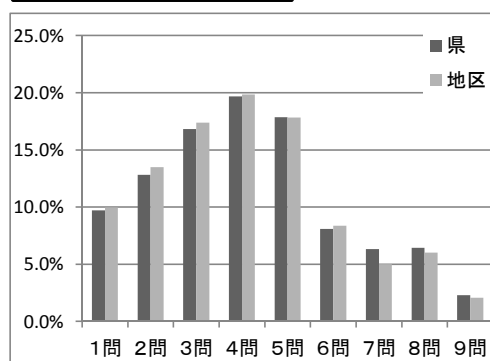
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	59.6	59.0	-0.6
思考・表現	43.4	42.0	-1.4
全体	54.0	53.1	-0.9

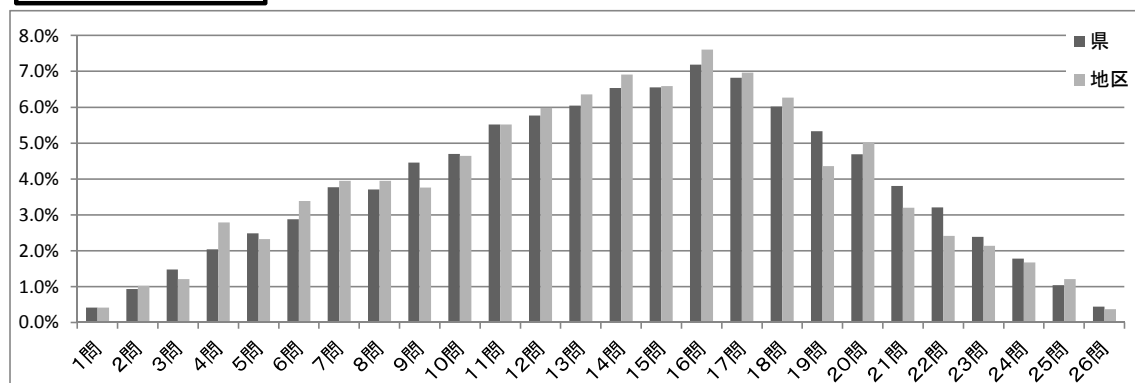
正答数(基礎・基本)の分布



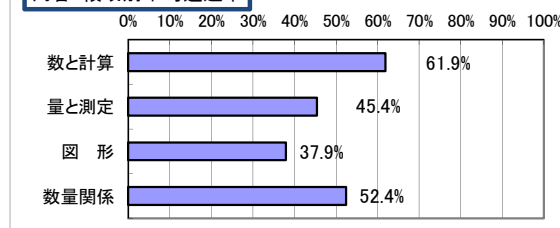
正答数(思考・表現)の分布



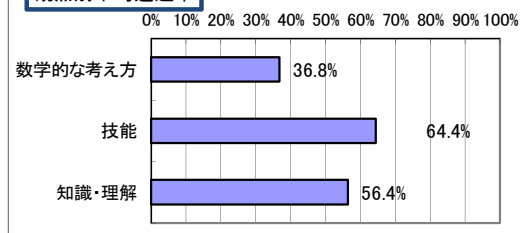
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



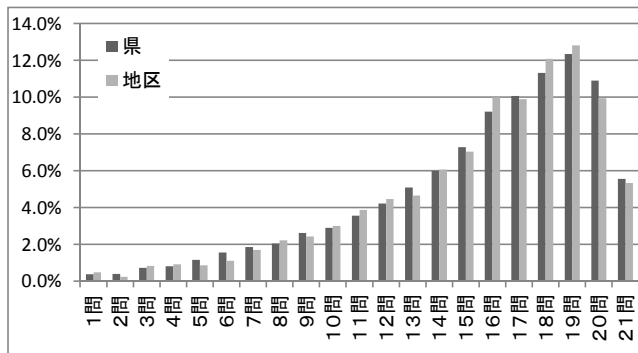
- 「基礎・基本」については、平均通過率 59.0%であり、設定通過率の7割には達していない。また、県平均を0.6ポイント下回っている。特に、数直線や図を用いて数量の関係を式に表すこと、合同な三角形をかくために必要な条件を考えること等に課題がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率 42.0%であり、設定通過率の5割には達成していない。また、県平均を1.4ポイントと大きく下回り、課題が大きい。特に、三角形の底辺や高さに着目して面積の違いを記述すること、示された考え方を新たな課題の解決に活用すること等に課題がある。
- 正答数の分布については県と概ね同様の傾向はあるが、県よりも上位層の割合が低く、中位層と下位層の割合が高い。下位層の児童へのきめ細かな指導と同時に、中位層の児童の学力を更に高める等、これまで以上に個に応じた指導、個を生かす指導の充実に努める必要がある。
- 今後の取組としては、児童の思考力・表現力をはぐくむために、数量や図形の意味を実感的に理解させる工夫や、児童相互の思考の交流や練り合いの場面の設定等、知識・技能の活用を図る学習活動の工夫による授業改善が必要である。

中学校第1学年

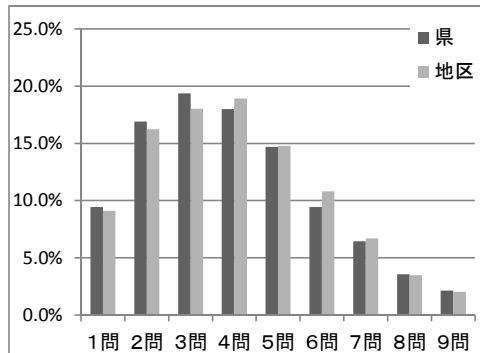
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	73.5	73.7	0.2
思考・表現	42.5	43.1	0.6
全体	64.2	64.5	0.3

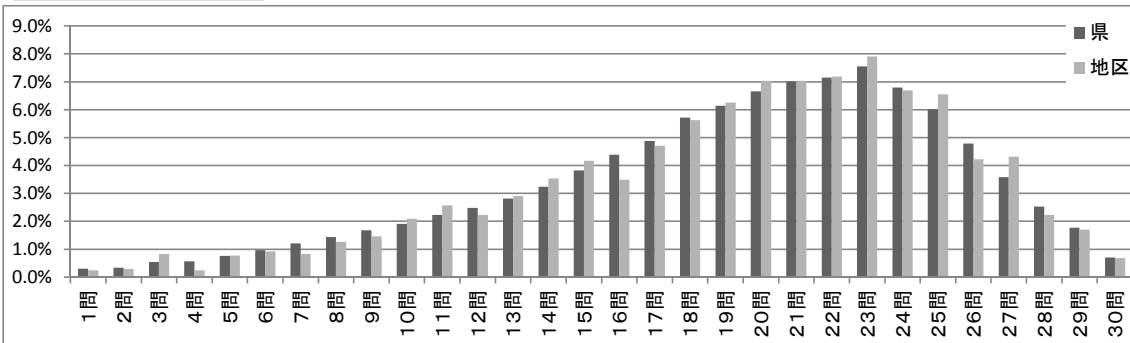
正答数(基礎・基本)の分布



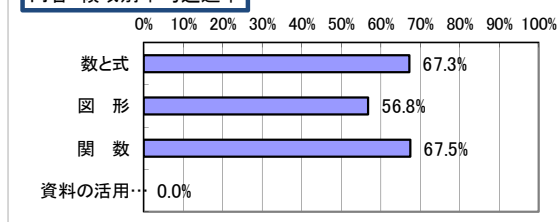
正答数(思考・表現)の分布



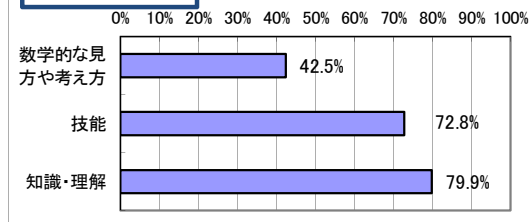
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



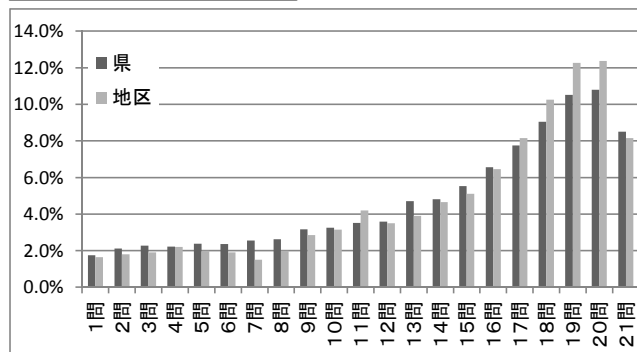
- 「基礎・基本」については、平均通過率 73.7%であり、設定通過率の7割を達成し、県平均を0.2ポイントと僅かに上回った。課題としては、不等号を用いて数量の大小関係を式に表すこと、展開図から立体の底面と高さを読み取り、体積を求めること等が挙げられる。
- 「思考・表現」については、平均通過率 43.1%と設定通過率の5割には達していないが、県平均を0.6ポイント上回った。課題としては、対称移動や回転移動について理解し、移動を組み合わせでできる図形を直感的にイメージすること等が挙げられる。
- 正答数の分布については、県よりも若干上位層の割合が高いが、県よりも学習集団の層のばらつきが大きく、県と比較すると学力の個人差が若干大きいようである。これまで以上に個に応じた指導、個を生かす指導に努めると共に、中位層の生徒の学力を引き上げることで、学習集団全体の学力向上を図る必要がある。
- 今後の取組としては、観察・実験等の学習活動及び言語活動の充実を通して、言語や式、図、表、グラフを関連付けて説明させたり、途中の経過をノートに記述させたりする等、知識・技能の活用を図る学習活動の工夫による授業改善が必要である。

中学校第2学年

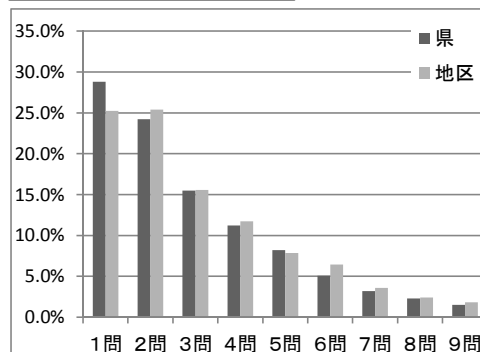
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	67.7	69.8	2.1
思考・表現	27.7	29.8	2.1
全体	55.7	57.8	2.1

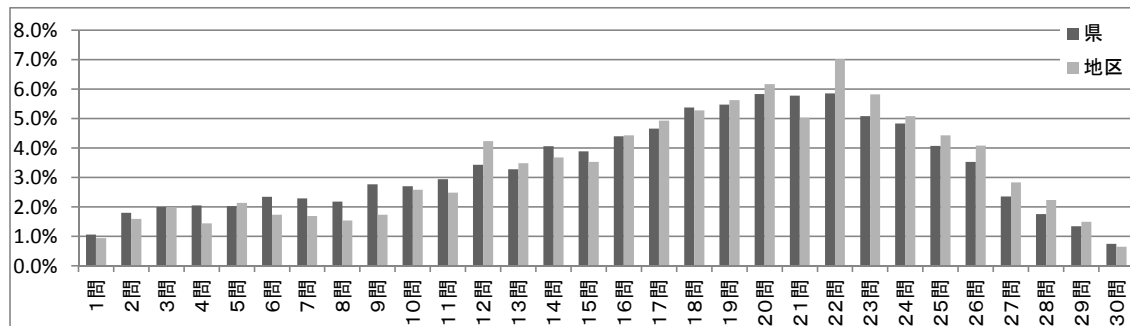
正答数(基礎・基本)の分布



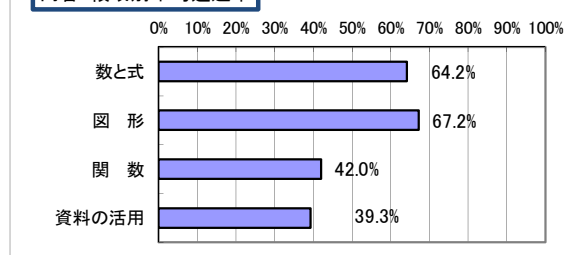
正答数(思考・表現)の分布



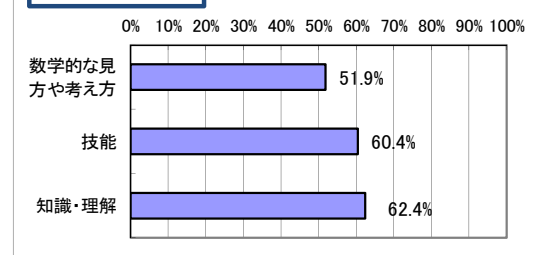
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



- 「基礎・基本」については、平均通過率 69.8%であり、ほぼ設定通過率の7割に達している。県平均と比べても 2.1 ポイントと大きく上回った。課題としては、二つの数量の間にどのような関数関係があるか、また、それらの関係を式や表・グラフで表すこと等が挙げられる。
- 「思考・表現」については、平均通過率 29.8%であり、設定通過率の5割には満たなかったが、県平均を 2.1 ポイントと大きく上回った。課題としては、数量及び数量の関係を文字式で表したり、式の意味を説明したりすること等が挙げられる。
- 正答数の分布については、県よりも上位層と中位層の割合が高く、下位層の割合が大幅に低い。特に「基礎・基本」の定着度においては、県よりも上位層の生徒の割合が大幅に高くなっており、「思考・表現」の定着度においては、県よりも下位層の生徒の割合が大幅に低くなっている。中位層の生徒の学力を更に引き上げることで、学習集団全体の更なる学力向上が期待できる。
- 今後の取組としては、課題解決の理由や根拠、判断の理由を記述・説明する時間を設定する等、知識・技能の活用を図るための授業改善が必要である。

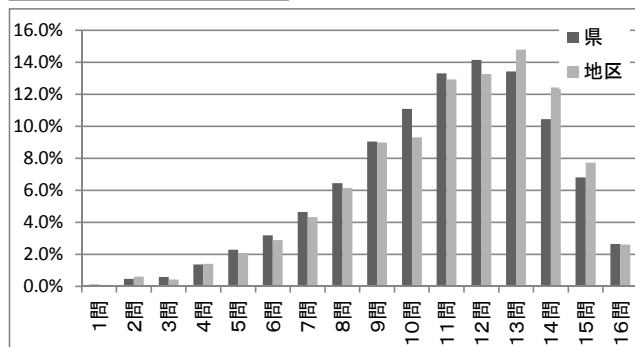
(4) 【理科】

小学校第5学年

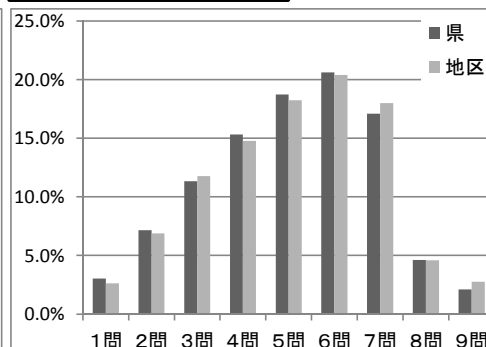
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	68.5	69.7	1.2
思考・表現	55.8	56.4	0.6
全体	63.9	64.9	1.0

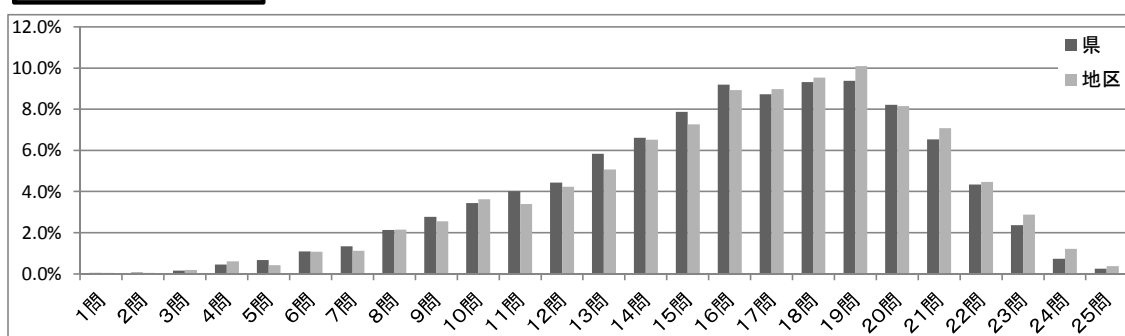
正答数(基礎・基本)の分布



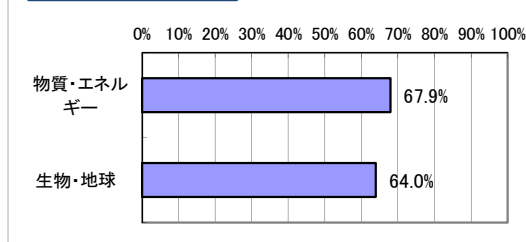
正答数(思考・表現)の分布



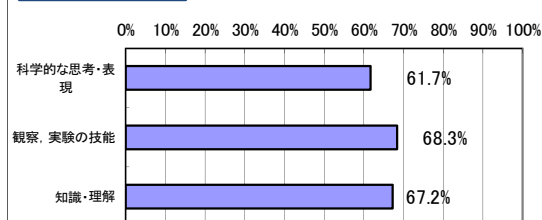
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



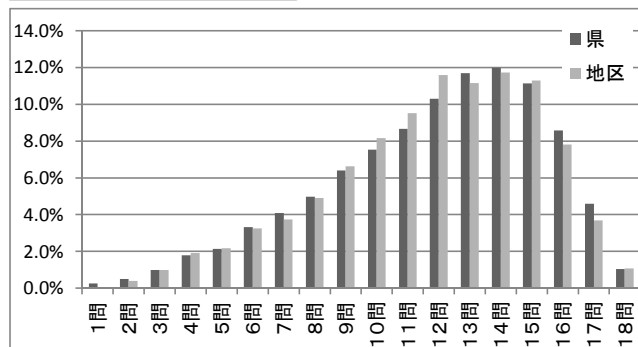
- 「基礎・基本」については、平均通過率 69.7%であり、ほぼ設定通過率の7割に達している。また、県平均を1.2ポイント上回っている。課題としては、サクラの越冬の仕方、湯気と水蒸気の違い等が挙げられる。
- 「思考・表現」については、平均通過率 56.4%であり、設定通過率の5割を達成した。また、県平均を0.6ポイント上回った。課題としては、天気の様子と気温の変化等が挙げられる。
- 正答数の分布については、県よりも上位層と中位層の割合が高く、下位層の割合が大幅に低い。特に「基礎・基本」の定着度においては、県よりも上位層の児童の割合が大幅に高くなっており、「思考・表現」の定着度においては、県よりも上位層の児童の割合が若干高くなっている。中位層の児童の学力を更に引き上げることで、学習集団全体の更なる学力向上が期待できる。
- 今後の取組としては、生活経験と関連付け、児童に自分自身の予想をしっかりとめた上で観察や実験を行い、予想と結果から分かることを考察させ、自分の言葉でまとめさせる等、児童の科学的な見方・考え方を高めるための授業改善が必要である。

中学校第1学年

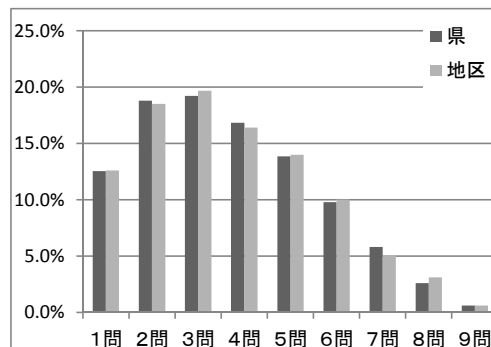
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	67.3	66.7	-0.6
思考・表現	40.8	40.5	-0.3
全体	58.5	58.0	-0.5

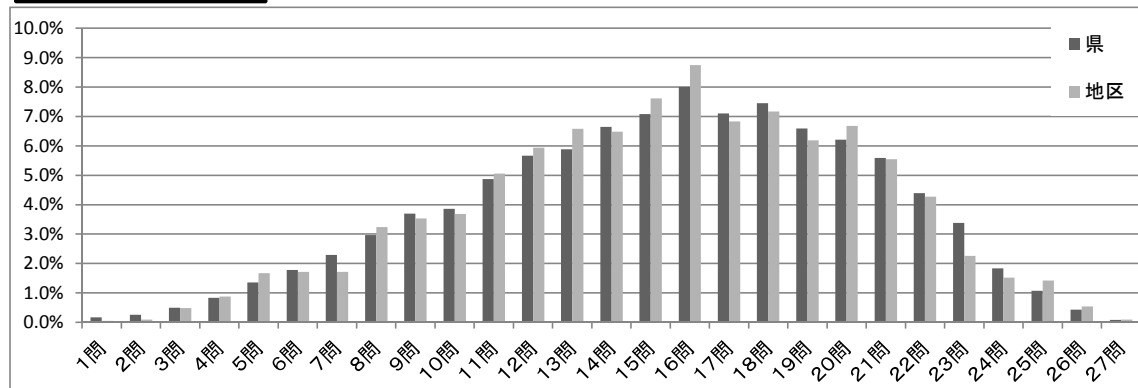
正答数(基礎・基本)の分布



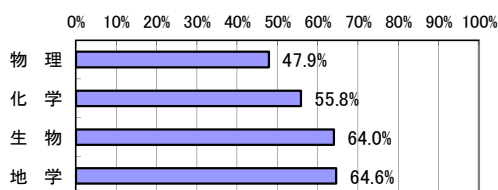
正答数(思考・表現)の分布



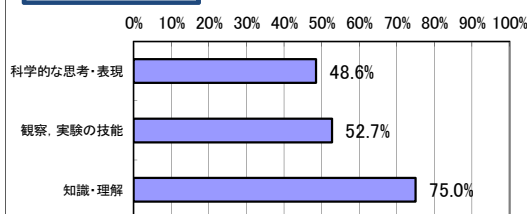
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



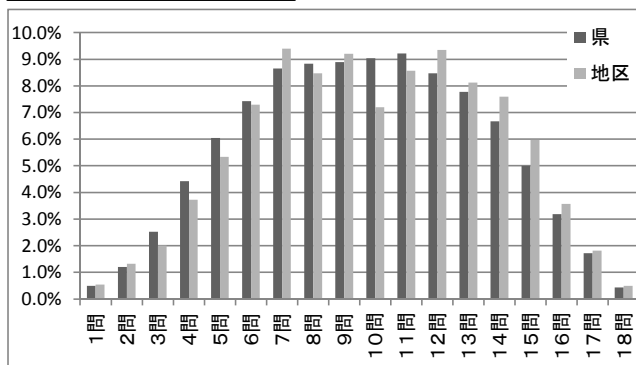
- 「基礎・基本」については、平均通過率 66.7%であり、設定通過率の7割には達していない。また、県平均を 0.6 ポイント下回っている。特に、顕微鏡の見えない原因の特定、液体から固体への状態変化に伴う体積変化と粒子の運動範囲に関する問題等に課題がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率 40.5%であり、設定通過率の5割には達成していない。また、県平均を 0.3 ポイント下回っている。特に硝酸カリウムと食塩の再結晶に関する問題、海水が濃縮する様子を粒子モデルで表す問題、光の反射に関する問題等に課題がある。
- 正答数の分布については県と概ね同様の傾向はあるが、県よりも上位層と下位層の割合が低く、中位層の割合が高くなっている。学習集団の大半を占める中位層の生徒の学力を高めることで、全体としての学力向上を図る必要がある。
- 今後の取組としては、実験器具を生徒全員が操作する機会を設けるとともに、科学的事象について考察し、説明する場を意図的に多く設定したり、学習事項と日常生活における具体的な場面との関連を図る学習活動を行ったりする等の授業改善が必要である。

中学校第2学年

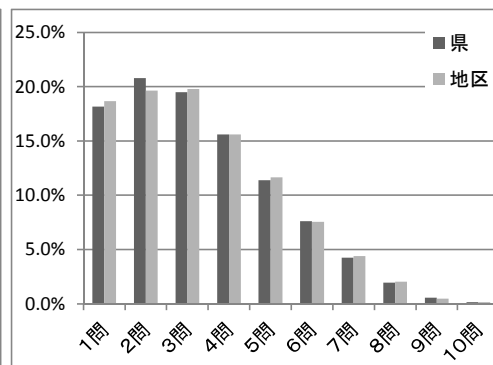
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	53.7	54.8	1.1
思考・表現	30.5	30.6	0.1
全体	45.4	46.2	0.8

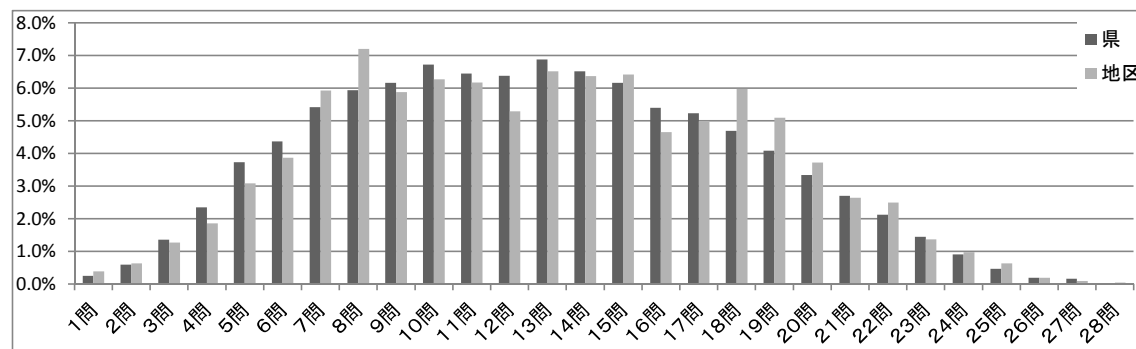
正答数(基礎・基本)の分布



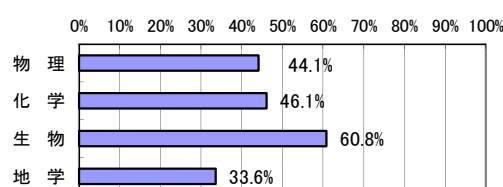
正答数(思考・表現)の分布



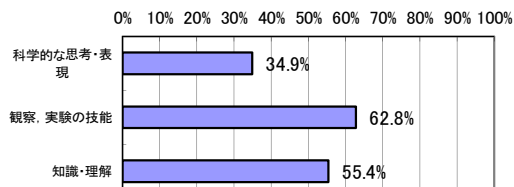
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



- 「基礎・基本」については、平均通過率 54.8%であり、設定通過率の7割には達していないが、県平均を1.1ポイント上回っている。課題としては、加熱による銅の変化に関する問題、物体に働く重力の問題等が挙げられる。
- 「思考・表現」については、平均通過率 30.8%であり、県平均を0.1ポイントと僅かに上回ったが、設定通過率の5割には達していない。課題としては、気体発生と生活との関わりに関する問題、火成岩の種類から活火山を選ぶ問題、地層の広がり方を土地の様子と関連付けて考える問題等が挙げられる。
- 正答数の分布については、県よりも若干上位層の割合が高く、中位層の割合が低い。下位層の割合は決して高くはないが、県と比較すると学力の層のばらつきが若干大きくなっている。特に「基礎・基本」の定着度において、その傾向が強くなっている。これまで以上に、個に応じた指導、個を生かす指導の充実が望まれる。
- 今後の取組としては、観察や実験等の結果を分析したり考察したりする場面で、適切な用語を用いて説明する活動を多く取り入れたり、学習したことを生活場面と関連付けて考える機会を適切に設定したりする等の授業改善が必要である。

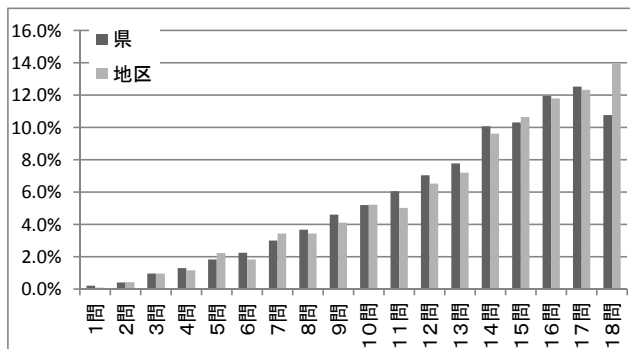
(5) 【英語】

中学校第1学年

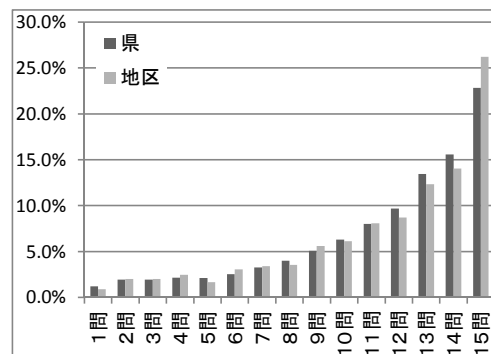
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	73.4	74.5	1.1
思考・表現	76.4	76.6	0.2
全体	74.7	75.5	0.8

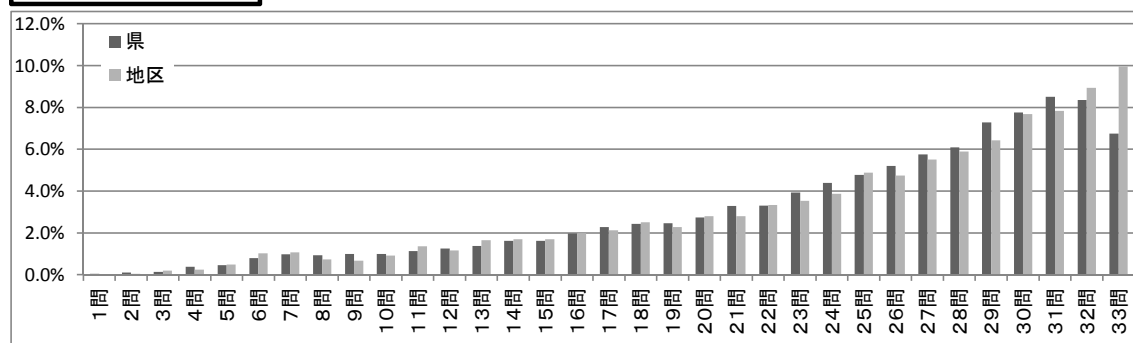
正答数(基礎・基本)の分布



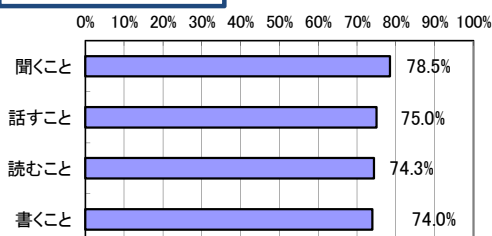
正答数(思考・表現)の分布



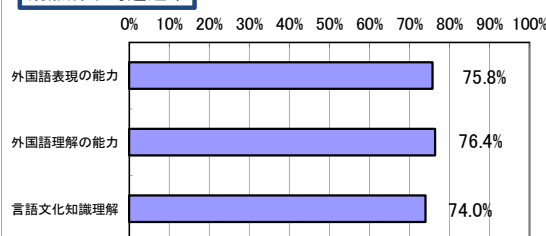
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



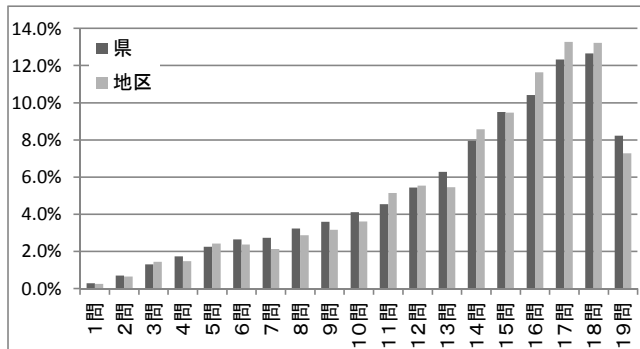
- 「基礎・基本」については、平均通過率 74.5%と設定通過率の7割を達成し、県平均を1.1ポイント上回っている。概ね定着が図られているが、〔主語(it) + be 動詞+形容詞〕の疑問文をつくる設問の通過率が 59.6%と低く、文字や符号を識別し、語と語の区切り等に注意して正しく書くこと等に課題が見られた。
- 「思考・表現」については、平均通過率 76.6%と設定通過率5割を大きく上回り、県平均との差は0.2ポイントと僅かに上回った。概ね定着が図られているが、英作文において、自分の意思が正しく伝わるように、文と文のつながり等に注意して文章を書く設問の通過率が、62.6%と低く、状況に応じて正確に英語を書いて表現すること等に課題が見られた。
- 正答数の分布については、「基礎・貴本」「思考・表現」ともに、県よりも上位層の割合が大幅に高くなっている。
- 今後の取組としては、基本的な語や表現について、様々な状況や場面設定の中で繰り返し使用させ習熟を図るとともに、自然な対話活動等を通して、既習の言語材料を駆使しながら状況に応じた適切な表現を生徒自身に考えさせ、スピーチやスキット、英作文等の多様な活動の設定により表現力を高める授業の展開が必要である。

中学校第2学年

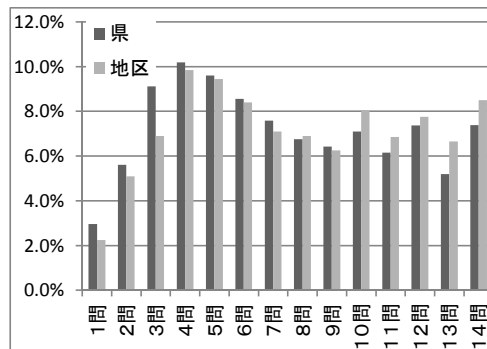
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	72.0	72.7	0.7
思考・表現	53.6	55.5	1.9
全体	64.3	65.4	1.1

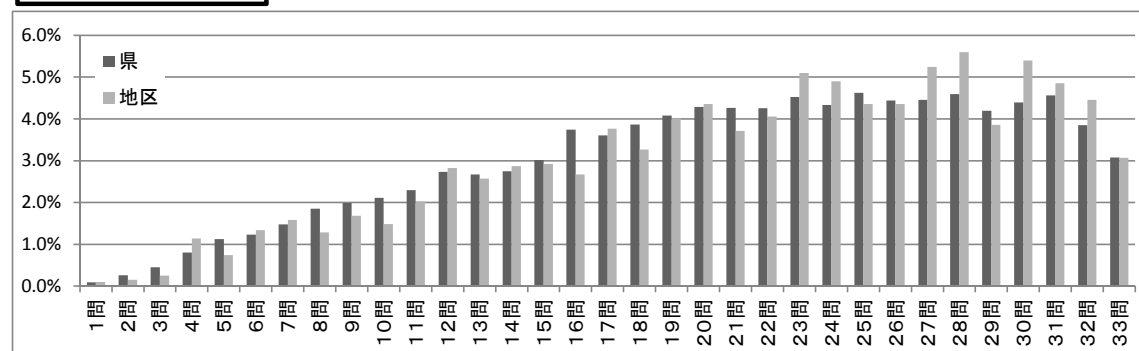
正答数(基礎・基本)の分布



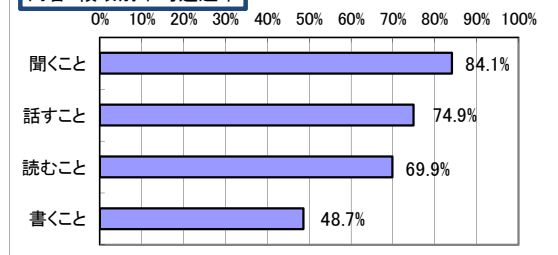
正答数(思考・表現)の分布



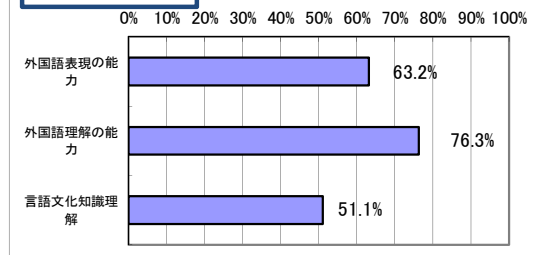
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



- 「基礎・基本」については、平均通過率 72.7%と設定通過率の7割を達成し、県平均を 0.7 ポイント上回っている。概ね定着が図られているが、to 不定詞の副詞的用法を用いた文をつくる設問の通過率が 50.1%と低く、まとまりのある英文を接続詞や前置詞の働きを理解し、語と語とのつながりに注意して英文を書くこと等に課題が見られた。
- 「思考・表現」については、平均通過率 55.5%と設定通過率5割を達成し、県平均を 1.9 ポイントと大きく上回った。受け取ったメールに対し、その内容を正しく踏まえ返事を書く設問において、単文レベルではある程度書けていても、3文目になると無答率が 21.7%と高くなる等、相手の意向を捉え、文と文のつながりを意識しながら、自分の意思を論理的に書くこと等に課題が見られた。
- 正答数の分布については、「基礎・貴本」「思考・表現」とともに、県よりも上位層と中位層の割合が高くなっている。
- 今後の取組としては、ある程度まとまりのある分量の英文を読み、その概要を正しく捉えながら、つながりのある複数の英文を書き、読んだ内容に適切に対応する表現をさせたり、Listening, Reading を通して理解したことを基に、Speaking, Writing により表現する活動に取り組ませたりする等、4 技能の関連付けを意識した授業の展開が必要である。

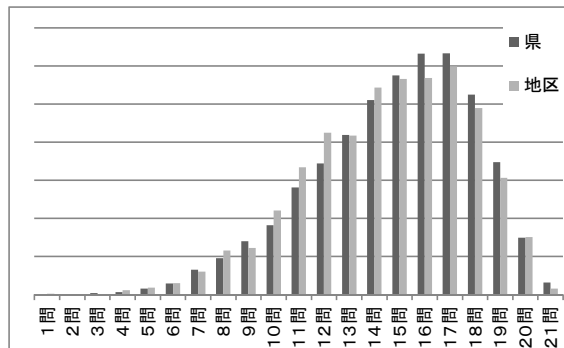
3 受検者の正答数分布からの考察～学力の実態と授業改善の方向性～

ここでは、本地区の調査実施学年における各教科の「基礎・基本」「思考・表現」ごとの正答数の分布を、特徴的なタイプに分類し、学力の定着状況の実態とそれに応じた指導の方向性を考察する。

基礎・基本

タイプA

小5国、小5理で特徴的に見られる分布のタイプ



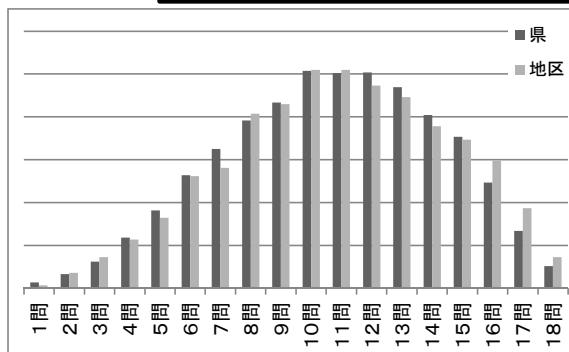
正答数分布の山が中央より右寄りであることから、下位層の割合が低く、中位層から上位層の割合が高くなっていることが分かる。



「基礎・基本」の定着は十分図られていると思われる。「思考・表現」を高める授業へ思い切ってシフトチェンジすることが望まれる。

タイプB

中1国、中2国、中1社、小5算で特徴的に見られる分布のタイプ



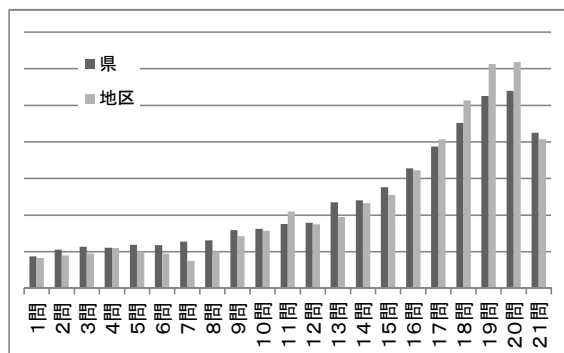
正答数分布の山が中央寄りであることから、中位層が学習集団の大多数を占めていることが分かる。



「基礎・基本」の定着は概ね図られていると思われる。基礎的・基本的事項の丁寧な指導から、「思考・表現」を高める授業へ段階的にシフトチェンジすることが望まれる。

タイプC

小5社、中2社、中1数、中2数、中1理、中1英、中2英で特徴的に見られる分布のタイプ



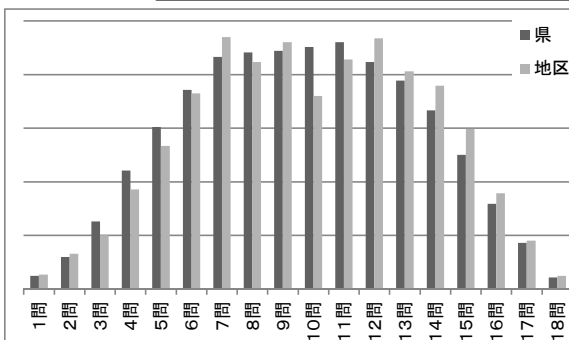
正答数分布の山は右寄りであるが、左端にも分布が見られることから、上位層の割合が高い反面、下位層の児童生徒も少なくはないことが分かる。



「基礎・基本」の定着が十分に図られている児童生徒が多いが、同時に、基礎学力が身に付いていない児童生徒もあり、学力差が見られる。下位層へのきめ細かい指導と同時に、「思考・表現」を高める授業を展開する等、個に応じた指導の工夫を図ることが望まれる。

タイプD

中2理で特徴的に見られる分布のタイプ



正答数分布の山が中央から左右二つに分かれており、右端にも左端にも分布が見られることから、学習集団の層のばらつきが大きいことが分かる。

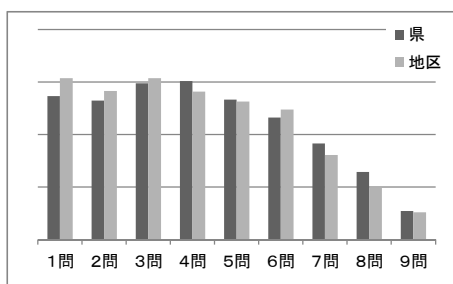


「基礎・基本」の定着が十分に図られている生徒とそうでない生徒の学力差が大きく、学力の定着状況にばらつきが見られる。個に応じた指導の工夫を図りながら、「思考・表現」を高める授業を展開することが望まれる。

思考・表現

タイプA

小5国、中1社で特徴的に見られる分布のタイプ



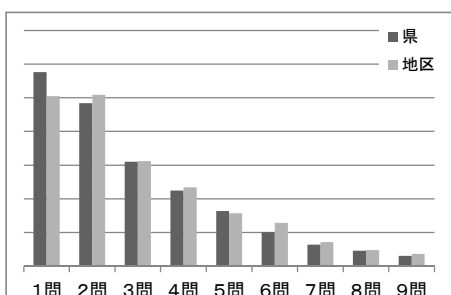
正答数分布の山が中央よりやや左寄りであることから、下位層と中位層の割合が高く、上位層の割合が低くなっていることが分かる。



単元を貫く言語活動の質を少しずつ上げる等、段階的に「思考・表現」を高める授業ヘシフトチェンジすることが望まれる。

タイプB

中1数、中2数、中1理、中2理で特徴的に見られる分布のタイプ



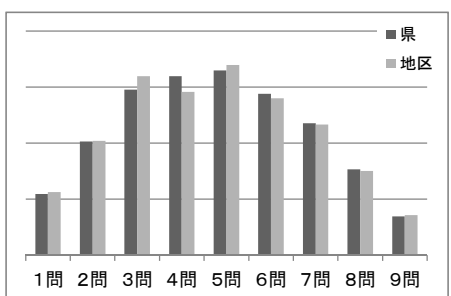
正答数分布の山が大きく左に寄っていることから、下位層の割合が高く、上位層、中位層の割合が低いことが分かる。



「思考・表現」を高める授業が十分に行われていない、或いは行われていても成果が上がっていないことがうかがえる。「思考・表現」にフォーカスした授業の進め方について学年部や教科部等で共通理解し、実践に取り掛かることが望まれる。

タイプC

中1国、中2国、小5社、中2社、小5算、小5理で特徴的に見られる分布のタイプ



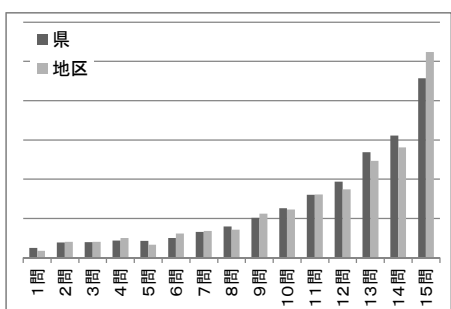
正答数分布の山は中央寄りであることから、中位層の割合が高いことが分かる。また、左側にも分布があることから、下位層の割合も低くないことが分かる。



「思考・表現」を高める授業を展開し、学習集団の大多数を占めている中位層の引き上げを図ることで、全体の学力向上を目指すとともに、個に応じた指導の充実に努めることが望まれる。

タイプD

中1英で特徴的に見られる分布のタイプ



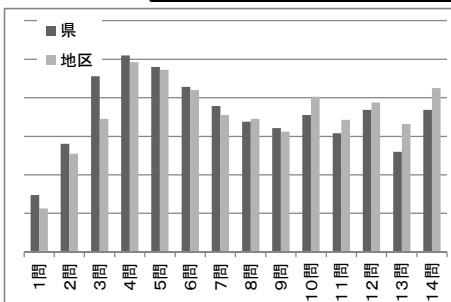
正答数分布の山が大きく右に寄っていることから、上位層の割合が高いことが分かる。反面、左端にも分布が若干見られることから、下位層の生徒がいることも分かる。



「思考・表現」の定着が概ね図られつつあることがうかがえるが、下位層にも分布が見られることから、引き続き「思考・表現」を高める授業を展開するとともに、個に応じた指導の充実に努めることが望まれる。

タイプE

中2英で特徴的に見られる分布のタイプ



正答数分布の山が中央から左右二つに分かれており、右端にも左端にも分布が見られることから、学習集団の層のばらつきが大きいことが分かる。



「思考・表現」の定着が十分に図られている生徒とそうでない生徒の学力差が大きく、学力の定着状況にばらつきが見られる。個に応じた指導の工夫を図りながら、「思考・表現」を高める授業を展開することが望まれる。

Ⅱ 児童生徒質問紙の結果

※ 1～2の各質問項目のグラフは、左から県、地区の結果を示している。

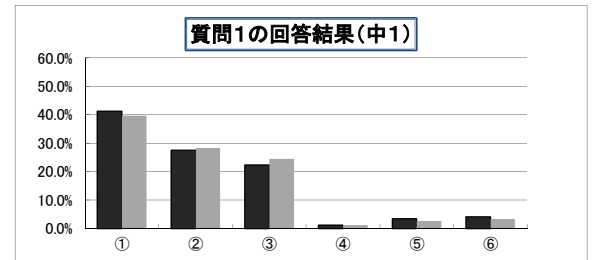
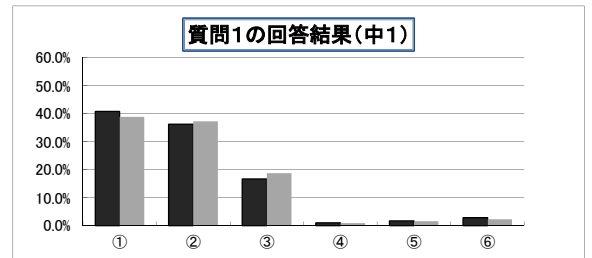
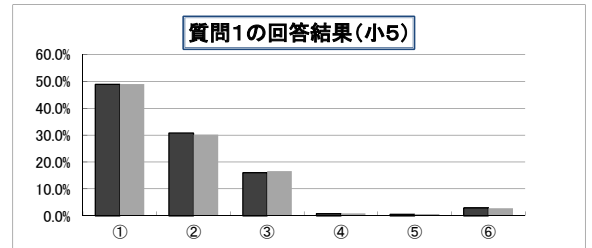
1 あなたは、家庭学習をどのようにしていますか。

- ① 学校の宿題だけをする。
- ② 学校の宿題がすんだら、自分で考えて他の学習をする。
- ③ 学校の宿題と塾の学習をする。
- ④ 学校の宿題はしないが、自分のやりたい学習をする。
- ⑤ 塾で学習するだけで、家庭学習はしないことが多い。
- ⑥ 学校以外では、ほとんど学習はしない。

	小5		中1		中2	
	県	地区	県	地区	県	地区
①	48.9%	48.9%	40.8%	38.9%	41.3%	39.7%
②	30.8%	30.1%	36.3%	37.3%	27.5%	28.4%
③	16.0%	16.6%	16.8%	18.8%	22.3%	24.5%
④	0.8%	0.9%	1.1%	1.0%	1.2%	1.3%
⑤	0.6%	0.7%	1.8%	1.7%	3.5%	2.7%
⑥	2.9%	2.8%	2.8%	2.3%	4.1%	3.4%

本地区児童生徒の学習状況の特徴

中学校において「学校の宿題と塾の学習をする」と回答した生徒の割合が、県平均よりも高くなっており、通塾生の割合が県平均よりも高いことが予想される。「学校の宿題が済んだら、自分で考えて他の学習をする」と回答した児童生徒の割合は、県平均とほぼ同じである。また、「学校以外では、ほとんど学習しない」と回答した児童生徒は、全学年、県平均よりも低く、その差は、学年が上がることに大きくなっている。本地区の児童生徒は全体的に、家庭学習に真面目に取り組んでいることがうかがえる。



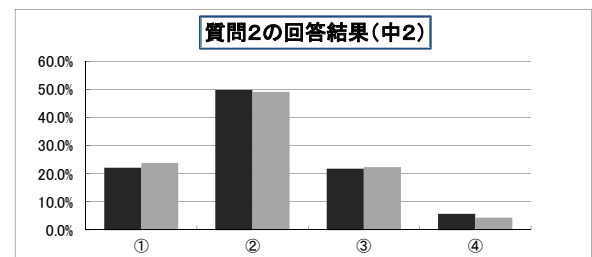
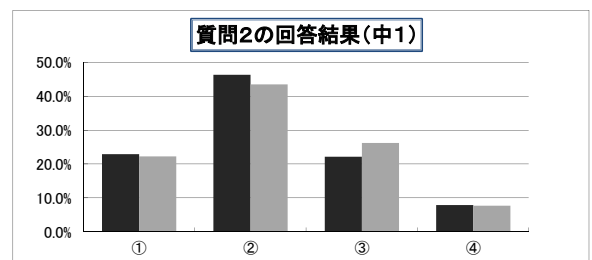
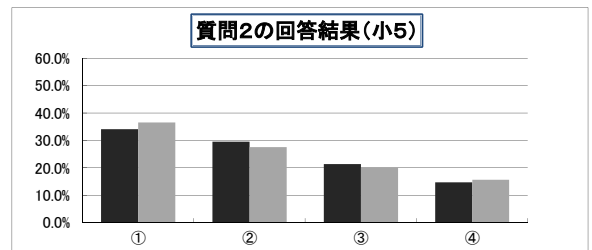
2 あなたが自分で考えてやる宿題（自学ノートなど）の内容は、どんなものが多いですか。

- ① ドリル等の問題をする。
- ② 教科書や問題集の練習問題する。
- ③ 教科書や参考書の文章や図、グラフなどを書き写す。
- ④ 自分でテーマを決めて調べ学習をする。

	小5		中1		中2	
	県	地区	県	地区	県	地区
①	34.1%	36.6%	22.9%	22.3%	22.2%	23.9%
②	29.5%	27.5%	46.3%	43.5%	49.8%	49.1%
③	21.4%	20.0%	22.1%	26.2%	21.8%	22.4%
④	14.7%	15.7%	7.9%	7.7%	5.8%	4.4%

本地区児童生徒の学習状況の特徴

小学校では、「ドリル等の問題をする」と回答した児童の割合が最も高いが、中学校では「教科書や問題集の練習問題をする」と回答した生徒の割合が最も高く、このことは県全体と同じ傾向にある。本地区の特徴としては、中1において「教科書や参考書の文章や図、グラフなどを書き写す」と回答した生徒の割合が、県平均よりも大幅に高くなっていることが挙げられる。「自分でテーマを決めて調べ学習をする」と回答した児童生徒は、小学校では、県平均よりも高い割合であるが、中学校では、県平均を若干下回っている。学習内容との関連付けを明確にした家庭学習の推進が大切である。



※ 3の質問項目のグラフは、左から小5、中1、中2の結果を示している。

3 あなたは、家で学習しているときに、分からない問題があったら、どうしますか。

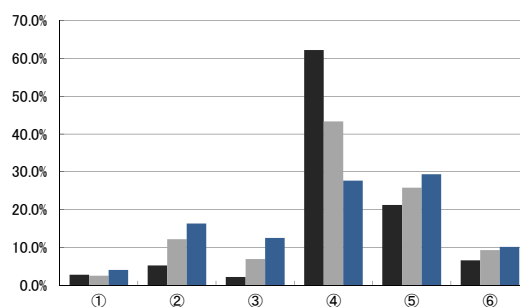
- ① 学校の先生に聞く。
- ② 友達に聞く。
- ③ 塾の先生や家庭教師の先生に聞く。
- ④ 家族や親戚に聞く。
- ⑤ 自分で調べる。
- ⑥ そのままにしておくことが多い。

本地区児童生徒の
学習状況の特徴

小学校では、「家族や親戚に聞く」と回答した児童の割合が圧倒的に高いが、この傾向は学年が上がるにつれて小さくなっている。逆に「自分で調べる」と回答した児童生徒の割合は、学年が上がるごとに高くなっている。また、「そのままにしておくことが多い」と回答した児童生徒の割合も、学年が上がるごとに高くなっている。教師による家庭学習の見届けなども必要である。

	小5	中1	中2
①	2.8%	2.5%	4.0%
②	5.2%	12.1%	16.3%
③	2.1%	6.9%	12.5%
④	62.2%	43.3%	27.7%
⑤	21.2%	25.8%	29.3%
⑥	6.5%	9.3%	10.1%

質問3の回答結果



※ 4～7の各質問項目のグラフは、左から県、地区の結果を示している。

4 あなたは、授業中にノートをとるときにどうしていますか。

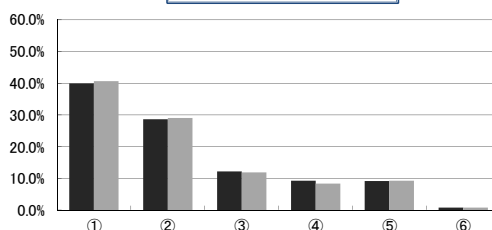
- ① 板書してあることを写す。
- ② 板書してあることを写すだけでなく、自分や友達の考えも書き込んでいる。
- ③ 板書してあることを写すだけでなく、先生の言葉も書き込んでいる。
- ④ 先生が指示したところだけ書いている。
- ⑤ 板書を参考に、自分なりにまとめ直ししながら書いている。
- ⑥ ノートは、ほとんどとらない。

	小5		中1		中2	
	県	地区	県	地区	県	地区
①	39.9%	40.7%	52.8%	50.9%	58.2%	52.6%
②	28.6%	29.1%	9.3%	9.4%	6.0%	6.7%
③	12.2%	11.9%	25.7%	27.1%	24.9%	28.7%
④	9.2%	8.3%	2.7%	2.7%	1.9%	2.2%
⑤	9.2%	9.3%	8.1%	8.6%	7.7%	8.9%
⑥	0.8%	0.8%	0.9%	27.1%	1.2%	0.8%

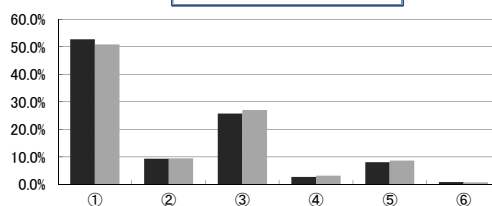
本地区児童生徒の学習状況の特徴

「板書してあることを写す」と回答した児童生徒の割合は、学年が上がるごとに、県平均よりも低くなっている。逆に「板書してあることを写すだけでなく、自分や友達の考えも書き込んでいる」や「先生の言葉も書き込んでいる」と回答した児童生徒の割合は、学年が上がるごとに、県平均よりも高くなっている。授業中におけるノートの取り方について工夫がなされてきていることがうかがえる。特に中2において「板書を参考に、自分なりにまとめ直ししながら書いている」と回答した生徒の割合が、県平均よりも大幅に高くなっている。生徒の「思考力・判断力・表現力」の向上を図る授業が展開されつつあることがうかがえる。このことは、中2における各教科の平均通過率が、全教科で県平均を上回った要因の一つとしても考えられる。

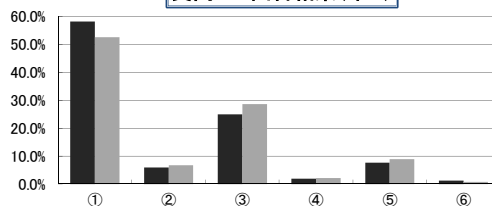
質問4の回答結果(小5)



質問4の回答結果(中1)



質問4の回答結果(中2)



5 あなたが、初めてのことを学習するときの気持ちはどれですか。

- ① どんなことを学ぶのか楽しみだ。
- ② 自分が好きな学習のときは楽しみだ。
- ③ 特に何も思わない。
- ④ できるかどうか（わかるかどうか）、心配だ。
- ⑤ どうせ自分にはできない（わからない）と、あまり期待しない。

	小5		中1		中2	
	県	地区	県	地区	県	地区
①	37.0%	37.5%	22.2%	22.2%	16.5%	17.9%
②	26.5%	26.1%	29.7%	31.2%	30.5%	32.1%
③	15.3%	15.6%	24.0%	22.1%	30.1%	28.8%
④	19.3%	18.9%	21.3%	22.2%	20.1%	18.9%
⑤	2.0%	1.8%	2.6%	2.2%	2.7%	2.3%

本地区児童生徒の学習状況の特徴

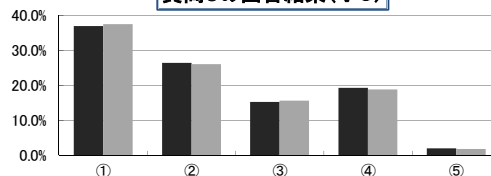
「どんなことを学ぶのか楽しみだ」と回答した児童生徒の割合は、学年が上がるごとに低くなっており、このことは県全体と同じ傾向にある。本地区では「どうせ自分にはできない（わからない）と、あまり期待しない」と回答した児童生徒の割合は全学年、県平均よりも低く、特に中学校において、その傾向が強くなっている。児童生徒への学習に対する動機付け、意欲付けなどがしっかりとなされていることがうかがえる。

6 日ごろの授業では、どんな活動をする人が多いですか。（国語）

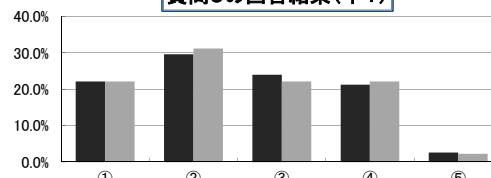
- ① 先生の説明を聞く。
- ② 学習の手順や方法を考える。
- ③ 実験や観察、見学など、体験をする。
- ④ 課題について、調べ学習をする。
- ⑤ 自分でじっくり考える。
- ⑥ 自分の考えを文章にまとめる。
- ⑦ 問題をといて、答え合わせをする。
- ⑧ ペアやグループで、考えを出し合ったり教え合ったりする。
- ⑨ 自分の考えや資料をもとに、話し合う。
- ⑩ お互いに発表したり、説明したりする。
- ⑪ プリントや問題集でたくさん練習をする。
- ⑫ 学習ゲームをしたり、学習クイズをしたりする。

	小5		中1		中2	
	県	地区	県	地区	県	地区
①	39.5%	40.1%	59.7%	60.0%	68.2%	67.8%
②	22.5%	22.9%	13.9%	15.5%	12.9%	14.7%
③	0.5%	0.4%	0.4%	0.4%	0.3%	0.2%
④	14.7%	14.2%	10.7%	9.4%	6.5%	5.3%
⑤	13.5%	14.0%	15.4%	14.9%	15.7%	14.9%
⑥	39.7%	38.2%	35.0%	36.7%	32.1%	31.9%
⑦	3.2%	2.9%	9.9%	9.7%	12.5%	12.5%
⑧	26.4%	27.4%	23.0%	21.1%	22.5%	22.7%
⑨	7.9%	7.2%	16.1%	5.9%	5.7%	5.2%
⑩	24.6%	25.7%	16.1%	18.0%	14.5%	17.6%
⑪	5.0%	4.5%	6.9%	6.7%	7.2%	5.7%
⑫	2.1%	2.2%	1.6%	1.1%	1.0%	0.5%

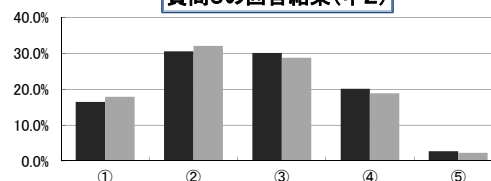
質問5の回答結果(小5)



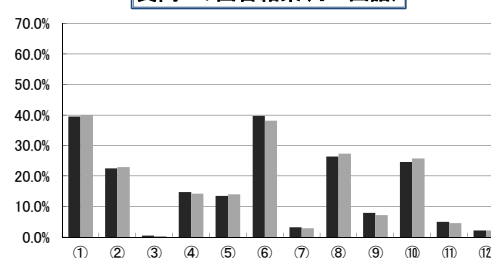
質問5の回答結果(中1)



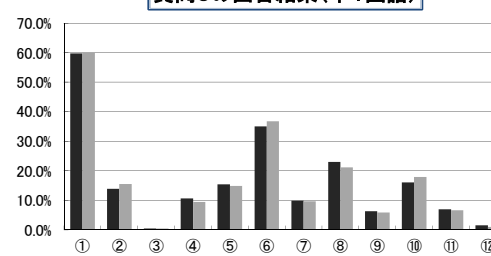
質問5の回答結果(中2)



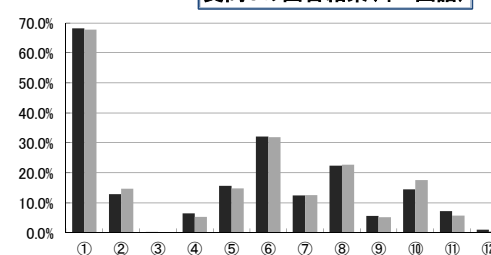
質問6の回答結果(小5国語)



質問6の回答結果(中1国語)



質問6の回答結果(中2国語)

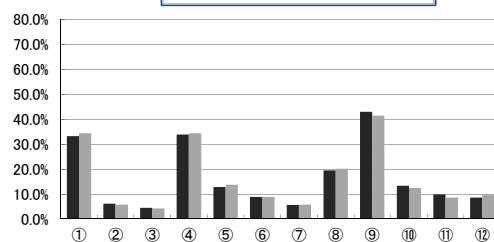


日ごろの授業では、どんな活動をする人が多いですか。（社会）

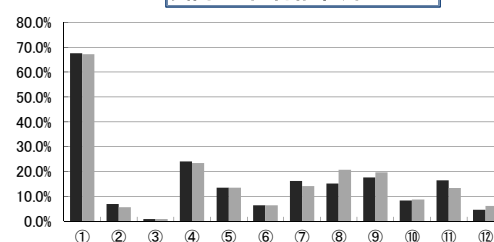
- ① 先生の説明を聞く。
- ② 学習の手順や方法を考える。
- ③ 実験や観察、見学など、体験をする。
- ④ 課題について、調べ学習をする。
- ⑤ 自分でじっくり考える。
- ⑥ 自分の考えを文章にまとめる。
- ⑦ 問題をといて、答え合わせをする。
- ⑧ ペアやグループで、考えを出し合ったり教え合ったりする。
- ⑨ 自分の考えや資料をもとに、話し合う。
- ⑩ お互いに発表したり、説明したりする。
- ⑪ プリントや問題集でたくさん練習をする。
- ⑫ 学習ゲームをしたり、学習クイズをしたりする。

	小 5		中 1		中 2	
	県	地区	県	地区	県	地区
①	33.3%	34.5%	67.6%	67.2%	66.3%	66.1%
②	6.1%	5.8%	6.9%	5.6%	8.0%	6.6%
③	4.5%	4.3%	0.8%	0.8%	0.6%	0.6%
④	33.9%	34.4%	24.0%	23.4%	24.8%	23.1%
⑤	12.8%	13.7%	13.5%	13.5%	12.3%	10.3%
⑥	8.9%	8.8%	6.4%	6.3%	6.5%	6.7%
⑦	5.6%	5.8%	16.2%	14.1%	16.5%	15.6%
⑧	19.5%	20.2%	15.2%	20.7%	22.0%	24.8%
⑨	43.0%	41.4%	17.6%	19.6%	12.1%	14.0%
⑩	13.4%	12.4%	8.3%	8.7%	9.4%	13.0%
⑪	9.9%	8.6%	16.1%	13.3%	16.1%	14.1%
⑫	8.6%	9.6%	3.9%	6.1%	3.9%	4.1%

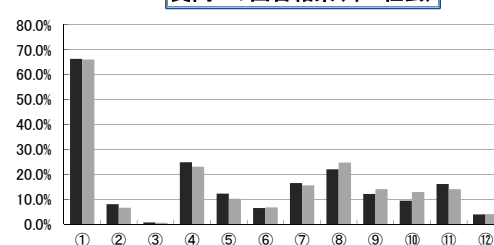
質問6の回答結果(小5社会)



質問6の回答結果(中1社会)



質問6の回答結果(中2社会)

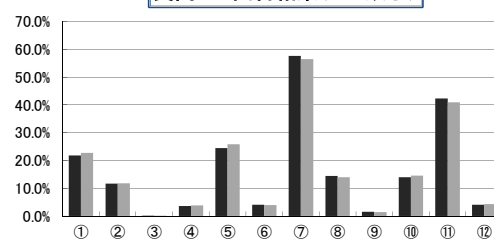


日ごろの授業では、どんな活動をする人が多いですか。（算数・数学）

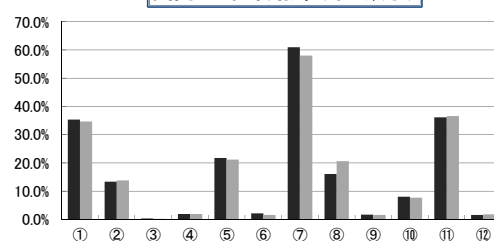
- ① 先生の説明を聞く。
- ② 学習の手順や方法を考える。
- ③ 実験や観察、見学など、体験をする。
- ④ 課題について、調べ学習をする。
- ⑤ 自分でじっくり考える。
- ⑥ 自分の考えを文章にまとめる。
- ⑦ 問題をといて、答え合わせをする。
- ⑧ ペアやグループで、考えを出し合ったり教え合ったりする。
- ⑨ 自分の考えや資料をもとに、話し合う。
- ⑩ お互いに発表したり、説明したりする。
- ⑪ プリントや問題集でたくさん練習をする。
- ⑫ 学習ゲームをしたり、学習クイズをしたりする。

	小 5		中 1		中 2	
	県	地区	県	地区	県	地区
①	21.7%	22.7%	35.3%	34.6%	44.1%	45.1%
②	11.7%	11.8%	13.3%	13.8%	12.5%	11.6%
③	0.2%	0.1%	0.3%	0.2%	0.4%	0.2%
④	3.6%	3.8%	1.9%	1.9%	2.1%	1.9%
⑤	24.4%	25.8%	21.7%	21.1%	20.6%	20.0%
⑥	4.1%	3.9%	2.1%	1.5%	1.7%	2.1%
⑦	57.6%	56.5%	61.0%	58.0%	61.7%	57.6%
⑧	14.4%	14.0%	16.1%	20.6%	13.0%	12.8%
⑨	1.5%	1.4%	1.7%	1.6%	1.5%	1.5%
⑩	14.0%	14.5%	8.0%	7.7%	6.0%	5.6%
⑪	42.3%	40.9%	36.2%	36.6%	34.8%	40.3%
⑫	4.0%	4.3%	1.6%	1.8%	0.8%	0.5%

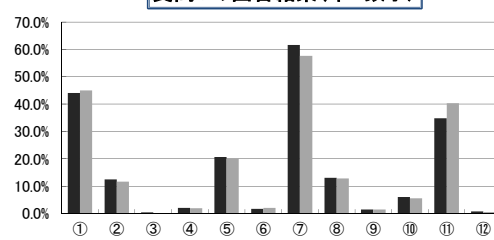
質問6の回答結果(小5数学)



質問6の回答結果(中1数学)



質問6の回答結果(中2数学)

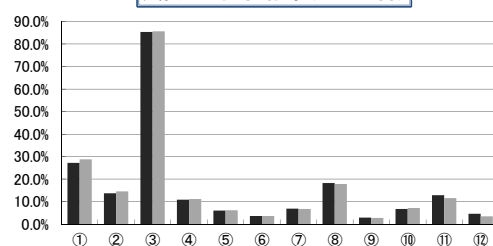


日ごろの授業では、どんな活動をする人が多いですか。（理科）

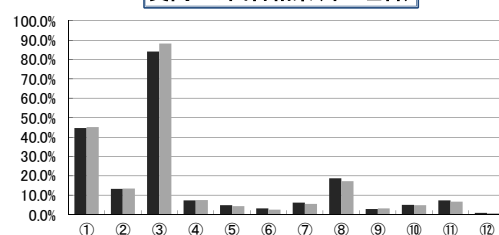
- ① 先生の説明を聞く。
- ② 学習の手順や方法を考える。
- ③ 実験や観察、見学など、体験をする。
- ④ 課題について、調べ学習をする。
- ⑤ 自分でじっくり考える。
- ⑥ 自分の考えを文章にまとめる。
- ⑦ 問題をといて、答え合わせをする。
- ⑧ ペアやグループで、考えを出し合ったり教え合ったりする。
- ⑨ 自分の考えや資料をもとに、話し合う。
- ⑩ お互いに発表したり、説明したりする。
- ⑪ プリントや問題集でたくさん練習をする。
- ⑫ 学習ゲームをしたり、学習クイズをしたりする。

	小 5		中 1		中 2	
	県	地区	県	地区	県	地区
①	27.2%	28.7%	44.7%	45.1%	49.7%	50.0%
②	13.6%	14.6%	13.4%	13.4%	10.2%	10.4%
③	85.4%	85.6%	84.1%	88.2%	84.6%	84.2%
④	10.9%	11.1%	7.3%	7.4%	5.1%	5.3%
⑤	6.0%	6.2%	4.8%	4.4%	3.5%	4.2%
⑥	3.6%	3.5%	3.3%	2.5%	2.5%	2.6%
⑦	6.8%	6.7%	6.3%	5.5%	8.9%	7.3%
⑧	18.2%	17.8%	18.7%	17.2%	16.6%	19.6%
⑨	2.8%	2.8%	2.8%	3.3%	2.0%	2.2%
⑩	6.7%	7.1%	5.0%	4.8%	3.7%	3.4%
⑪	12.8%	11.5%	7.3%	6.7%	11.0%	7.8%
⑫	4.6%	3.4%	1.0%	0.8%	1.3%	2.1%

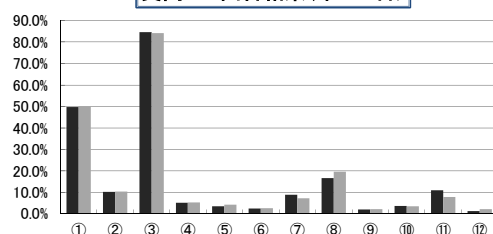
質問6の回答結果(小5理科)



質問6の回答結果(中1理科)



質問6の回答結果(中2理科)

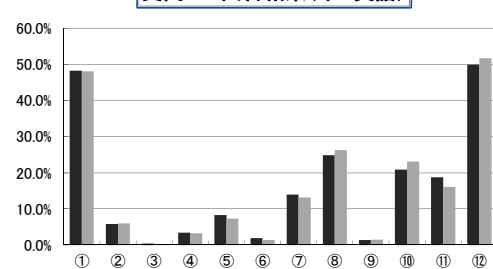


日ごろの授業では、どんな活動をする人が多いですか。（英語）

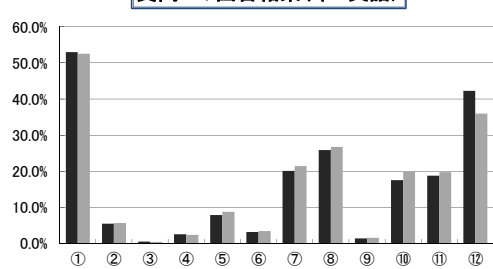
- ① 先生の説明を聞く。
- ② 学習の手順や方法を考える。
- ③ 実験や観察、見学など、体験をする。
- ④ 課題について、調べ学習をする。
- ⑤ 自分でじっくり考える。
- ⑥ 自分の考えを文章にまとめる。
- ⑦ 問題をといて、答え合わせをする。
- ⑧ ペアやグループで、考えを出し合ったり教え合ったりする。
- ⑨ 自分の考えや資料をもとに、話し合う。
- ⑩ お互いに発表したり、説明したりする。
- ⑪ プリントや問題集でたくさん練習をする。
- ⑫ 学習ゲームをしたり、学習クイズをしたりする。

	中 1		中 2	
	県	地区	県	地区
①	48.3%	48.1%	53.0%	52.5%
②	5.9%	6.0%	5.5%	5.6%
③	0.4%	0.2%	0.5%	0.4%
④	3.4%	3.3%	2.5%	2.4%
⑤	8.3%	7.3%	7.8%	8.7%
⑥	1.9%	1.4%	3.2%	3.4%
⑦	13.9%	13.1%	20.1%	21.4%
⑧	24.9%	26.3%	25.9%	26.7%
⑨	1.4%	1.4%	1.4%	1.6%
⑩	20.9%	23.1%	17.5%	19.8%
⑪	18.7%	16.1%	18.8%	19.7%
⑫	49.9%	51.8%	42.2%	36.0%

質問6の回答結果(中1英語)



質問6の回答結果(中2英語)



各教科の授業における本地区児童生徒の学習状況の特徴

国語

小学校では「先生の説明を聞く」と「自分の考えを文章にまとめる」と回答した児童の割合は、ほぼ同程度であるが、中学校では「先生の説明を聞く」と回答した生徒の割合が圧倒的に高くなっている。この傾向は、県も本地区も同様である。しかし、本地区では、「お互いに発表したり説明したりする」と回答した児童生徒が、全学年において県平均よりも高く、学年が上がるごとに、県平均との差が大きくなっている。児童生徒が自分の考えや意見を発表できる機会を設定するなど、言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力の向上を目指す授業実践に意識的に取り組んでいることがうかがえる。

社会

小学校では「先生の説明を聞く」と「課題について調べ学習をする」と回答した児童の割合は、ほぼ同程度であるが、中学校では「先生の説明を聞く」と回答した生徒の割合が圧倒的に高くなっている。この傾向は、県も本地区も同様である。しかし、本地区では、「ペアやグループで、考えを出し合ったり教え合ったりする」と回答した児童生徒が、全学年において県平均よりも高く、特に中学校においてその差が大きくなっている。また、「自分の考えや資料をもとに話し合う」と回答した児童生徒の割合は、小学校においては、県平均より若干低い、中学校では学年が上がることに、その差が大きくなっている。自他の考えや意見を交流する機会を設定するなど、言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力の向上を目指す授業実践に意識的に取り組んでいることがうかがえる。

算数・数学

全学年で「問題を解いて、答え合わせをする」と回答した児童生徒の割合が最も高く、この傾向は県も本地区も同様である。本地区の特徴としては、中1で「ペアやグループで、考えを出し合ったり教え合ったりする」、中2で「プリントや問題集でたくさん練習する」と回答した生徒の割合が県平均よりもかなり高いことが挙げられる。自他の考えや意見を交流する機会を設定するなど、言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力の向上を目指す授業を実践するとともに、多くの問題に取り組ませるなど、習熟を図る授業にも取り組んでいることがうかがえる。

理科

全学年で「実験や観察、見学など、体験をする」と回答した児童生徒の割合が最も高く、体験的な学習活動が行われていることがうかがわれる。この傾向は県も本地区も同様であるが、特に中1におけるその割合は県平均よりもかなり高くなっている。また、中1では「ペアやグループで、考えを出し合ったり教え合ったりする」と回答した生徒の割合が県平均を若干下回っているが、中2では県平均よりもかなり高くなっている。実験等の体験的な学習活動の充実や、自他の考えや意見を交流する機会の設定等による言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力の向上を目指す授業実践に意識的に取り組んでいることがうかがえる。

英語

中1では「学習ゲームをしたり、学習クイズをしたりする」と「先生の説明を聞く」と回答した生徒の割合がほぼ同じであるが、中2では「先生の説明を聞く」の割合が最も高くなっている。この傾向は、県も本地区も同様である。中1においては、小学校外国語活動との関連を踏まえた指導が行われているものと思われる。本地区の特徴としては、中1・中2ともに「ペアやグループで、考えを出し合ったり教え合ったりする」と「お互いに発表したり、説明したりする」と回答した生徒の割合が、県平均よりも高くなっていることが挙げられる。コミュニケーション活動の工夫など、言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力の向上を目指す授業を実践するとともに、多くの問題に取り組ませることで習熟を図る授業に取り組んでいることがうかがえる。

7 あなたは、次のような授業で学んでいて、どのように感じますか。

(1) 先生がくわしく説明してくれる授業

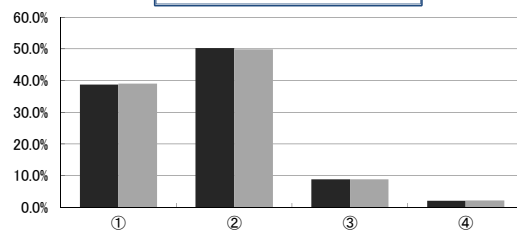
- ① とてもやりがいを感じる。
- ② やりがいを感じる。
- ③ あまりやりがいを感じない。
- ④ やりがいを感じない。

	小 5		中 1		中 2	
	県	地区	県	地区	県	地区
①	38.8%	39.0%	33.4%	33.5%	32.1%	32.7%
②	50.2%	49.8%	54.1%	55.5%	54.4%	53.4%
③	8.8%	8.8%	10.0%	8.9%	11.1%	11.6%
④	2.0%	2.2%	2.0%	2.0%	2.3%	2.2%

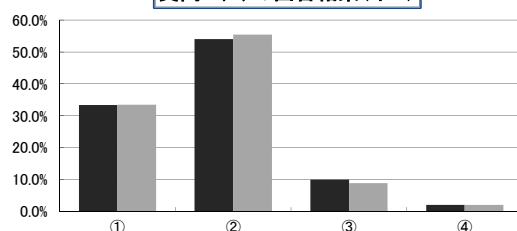
本地区児童生徒の学習状況の特徴

全学年において「やりがいを感じる」と回答した児童生徒の割合が最も高く、この傾向は県も本地区も同様である。「やりがいを感じない」と回答した児童生徒の割合は、小5において県平均よりも若干高く、中1では同程度、中2では若干高くなっている。

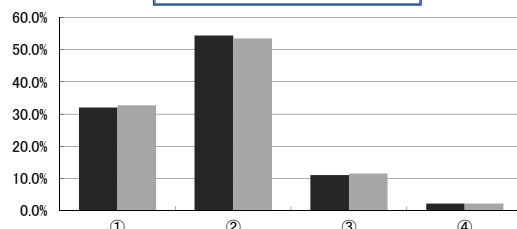
質問7(1)の回答結果(小5)



質問7(1)の回答結果(中1)



質問7(1)の回答結果(中2)



(2) 自分たちで考えたり話し合ったりする授業

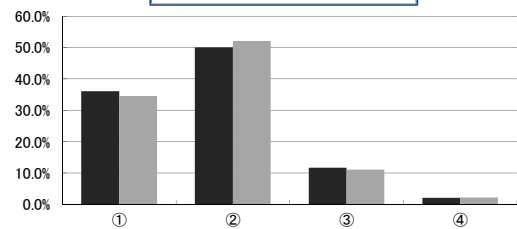
- ① とてもやりがいを感じる。
- ② やりがいを感じる。
- ③ あまりやりがいを感じない。
- ④ やりがいを感じない。

	小 5		中 1		中 2	
	県	地区	県	地区	県	地区
①	36.1%	34.6%	32.3%	31.3%	28.7%	30.5%
②	50.0%	52.1%	51.1%	53.2%	51.7%	51.1%
③	11.7%	11.1%	14.0%	13.5%	16.4%	16.0%
④	2.1%	2.2%	2.3%	2.0%	3.1%	2.4%

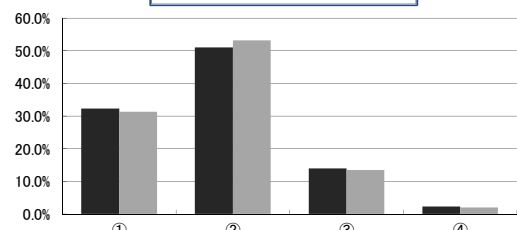
本地区児童生徒の学習状況の特徴

全学年において「やりがいを感じる」と回答した児童生徒の割合が最も高く、この傾向は県も本地区も同様である。「とてもやりがいを感じる」と回答した児童生徒の割合は小5と中1では県平均よりも低い、中2においては、県平均よりも高い。「やりがいを感じない」と回答した児童生徒の割合は、小学校において県平均よりも高く、中学校では県平均よりも低くなっている。

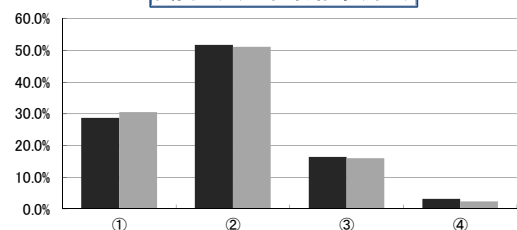
質問7(2)の回答結果(小5)



質問7(2)の回答結果(中1)



質問7(2)の回答結果(中2)



(3) 自分たちが発表したり、友達の発表を聞いたりすることが多い授業

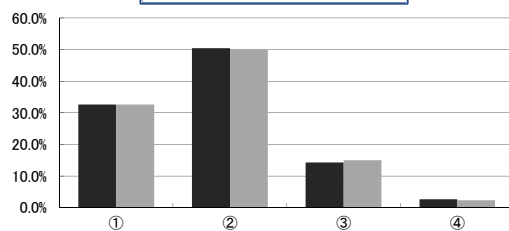
- ① とてもやりがいを感じる。
- ② やりがいを感じる。
- ③ あまりやりがいを感じない。
- ④ やりがいを感じない。

	小 5		中 1		中 2	
	県	地区	県	地区	県	地区
①	32.6%	32.7%	21.6%	20.9%	17.3%	17.8%
②	50.5%	50.0%	52.9%	54.3%	52.5%	51.1%
③	14.3%	15.0%	21.3%	21.8%	25.5%	27.0%
④	2.7%	2.3%	3.8%	2.9%	4.7%	4.0%

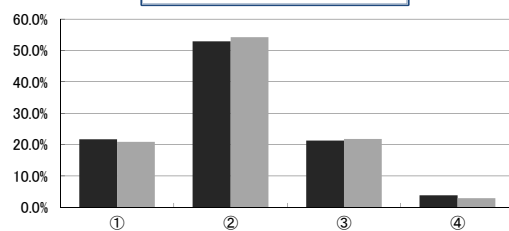
本地区児童生徒の学習状況の特徴

全学年において「やりがいを感じる」と回答した児童生徒の割合が最も高く、この傾向は県も本地区も同様である。「とてもやりがいを感じる」と回答した児童生徒の割合は小5と中1では県平均よりも低い、中2においては、県平均よりも高い。「とてもやりがいを感じる」と「やりがいを感じる」を合わせた割合は、中1において県平均よりも高いが、小5と中2では、県平均よりも低くなっている。「やりがいを感じない」と回答した児童生徒の割合は、全学年において県平均よりも低くなっている。

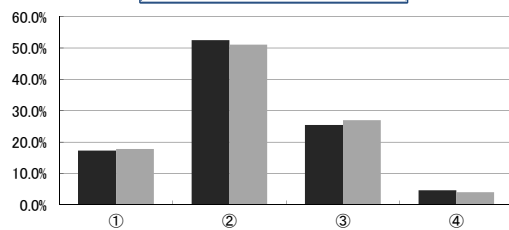
質問7(3)の回答結果(小5)



質問7(3)の回答結果(中1)



質問7(3)の回答結果(中2)



(4) 難しい課題に挑戦する授業

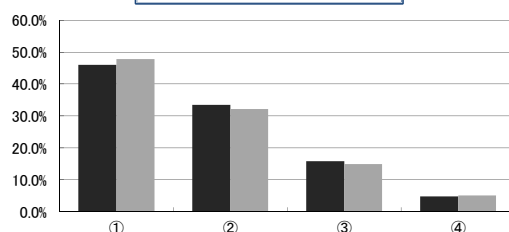
- ① とてもやりがいを感じる。
- ② やりがいを感じる。
- ③ あまりやりがいを感じない。
- ④ やりがいを感じない。

	小 5		中 1		中 2	
	県	地区	県	地区	県	地区
①	46.0%	47.8%	37.1%	38.7%	32.3%	33.9%
②	33.4%	32.2%	37.7%	38.6%	40.6%	40.1%
③	15.8%	14.9%	18.6%	17.1%	20.8%	19.9%
④	4.8%	5.1%	6.2%	5.6%	6.3%	6.0%

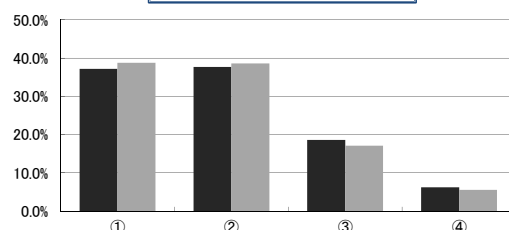
本地区児童生徒の学習状況の特徴

小学校においては「とてもやりがいを感じる」と回答した児童の割合が最も高く、中1においては「とてもやりがいを感じる」と「やりがいを感じる」と回答した生徒の割合がほぼ同程度である。中2においては「やりがいを感じる」と回答した生徒の割合が最も高い。これらの傾向は県も本地区も同様であるが、「やりがいを感じる」と回答した児童生徒の割合は全学年において県平均よりも高くなっており、逆に「やりがいを感じない」と回答した児童生徒の割合は全学年において、県平均よりも低くなっている。

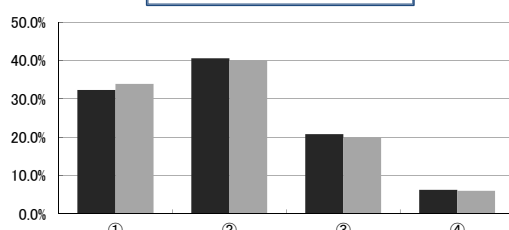
質問7(4)の回答結果(小5)



質問7(4)の回答結果(中1)



質問7(4)の回答結果(中2)



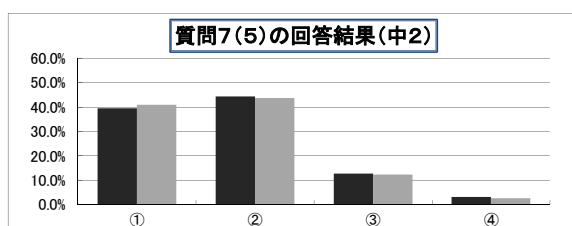
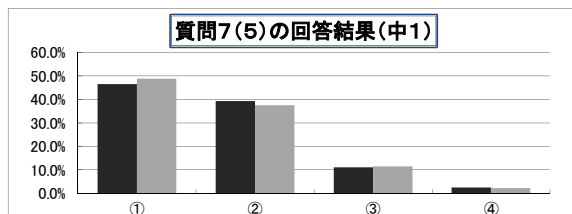
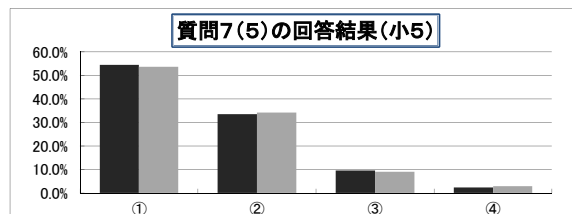
(5) 自分たちで調べて、課題を解決する授業

- ① とてもやりがいを感じる。
- ② やりがいを感じる。
- ③ あまりやりがいを感じない。
- ④ やりがいを感じない。

	小5		中1		中2	
	県	地区	県	地区	県	地区
①	54.5%	53.7%	46.5%	48.7%	39.5%	40.9%
②	33.6%	34.2%	39.2%	37.4%	44.4%	43.8%
③	9.6%	9.1%	11.1%	11.4%	12.7%	12.4%
④	2.3%	3.0%	2.6%	2.2%	3.1%	2.7%

本地区児童生徒の学習状況の特徴

小5と中1においては「とてもやりがいを感じる」と回答した児童生徒の割合が最も高く、中1においては「やりがいを感じる」と回答した生徒の割合が最も高い。これらの傾向は県も本地区も同様である。「とてもやりがいを感じる」と「やりがいを感じる」を合わせた割合は、小5において県平均よりも低い、中1と中2では、県平均よりも高くなっている。逆に「やりがいを感じない」と回答した児童生徒の割合は、小5において県平均よりも高く、中1・中2では、県平均よりも低くなっている。



※ 8～9の各質問項目のグラフは、左から小5、中1、中2の結果を示している。

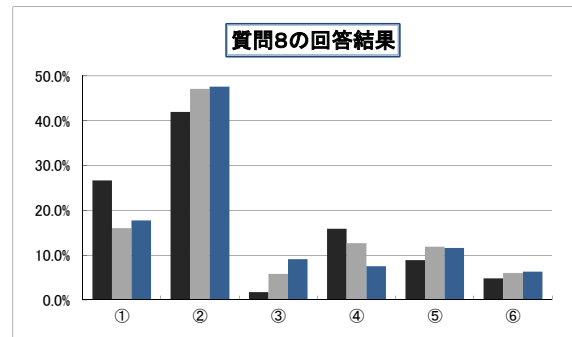
8 あなたは、授業中分らないことがあったら、どうしますか。

- ① 学校の先生に聞く。
- ② 友達に聞く。
- ③ 後で、塾の先生や家庭教師の先生に聞く。
- ④ 後で、家族や親戚に聞く。
- ⑤ 自分で調べる。
- ⑥ そのままにしておく。

本地区児童生徒の学習状況の特徴

	小5	中1	中2
①	26.6%	16.0%	17.8%
②	41.9%	47.1%	47.6%
③	1.7%	5.8%	9.1%
④	15.9%	12.7%	7.6%
⑤	8.9%	11.9%	11.6%
⑥	4.8%	6.0%	6.3%

「学校の先生に聞く」と回答した児童生徒の割合は小学校と比較すると中学校で大幅に低くなっている。全学年において「友達に聞く」と回答した割合が最も高いが、学年が上がるごとにその傾向が強くなる。また、「そのままにしておく」と回答した割合も、学年が上がるごとに高くなっている。個別指導の充実が必要である。



9 学習する中で楽しいと感じたり、やりがいを感じたりする時は、どんな時ですか。

- ① 教科の学習（国語、算数など）
- ② 道徳や総合的な学習の時間
- ③ 特別活動（学級活動、学校行事など）
- ④ 楽しさや、やりがいを感じるときはない。

	小5	中1	中2
①	37.6%	38.7%	40.7%
②	19.4%	16.3%	16.1%
③	38.4%	40.4%	49.2%
④	3.5%	4.1%	5.5%

本地区児童生徒の学習状況の特徴

「教科の学習」と「特別活動」と回答した児童生徒の割合は、学年が上がるごとに高くなっており、逆に「道徳や総合的な学習の時間」と回答した割合は、学年が上がるごとに低くなっている。「楽しさや、やりがいを感じるときはない」と回答した割合は学年が上がるごとに高くなっている。個に応じた指導、個を生かす指導に努め、児童生徒が「学ぶ喜びや楽しさ」を味わえるような授業を構築する必要がある。

